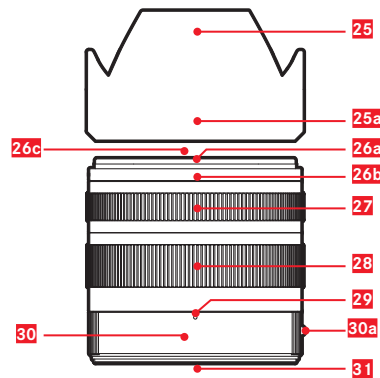
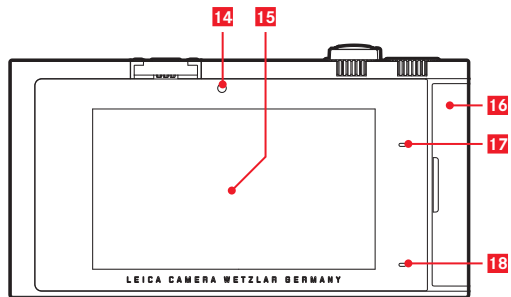
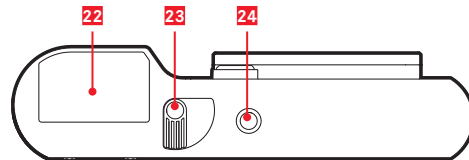
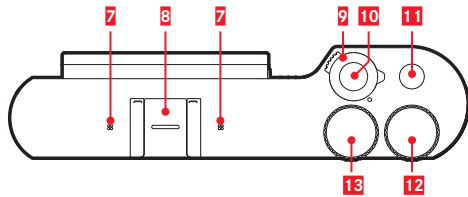
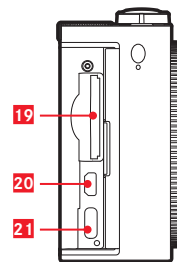
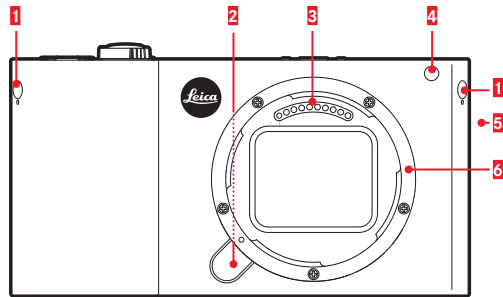




LEICA TL2
取扱説明書



各部の名称

カメラ

正面

1. **1** ダミープラグ
2. **2** レンズ着脱ボタン
3. **3** 電子接点
4. **4** セルフタイマーランプ /AF 補助光ランプ
5. **5** スピーカー
6. **6** レンズマウント

上面

7. **7** マイク
8. **8** アクセサリーシュー
1. **9** メインスイッチ
1. **10** シャッターボタン
2. **11** ファンクションボタン
3. **12** 設定ダイヤル(右)
- 13** 設定ダイヤル(左)

背面

4. **14** 輝度センサー
5. **15** 液晶モニター
6. **16** SDカード/端子ドア
7. **17** LEDランプ
8. **18** 充電 LED ランプ

右側面 (SD カード / 端子ドアを開けた状態)

9. **19** SD カードスロット
10. **20** HDMI 端子
11. **21** USB 端子

底面

12. **22** バッテリー
13. **23** バッテリー取り出しレバー
14. **24** 三脚ねじ穴

レンズ

15. **25** レンズフード
16. a. レンズフード着脱指標
1. **26** フロントマウント
1. a. レンズフード取り付けバヨネット
1. b. レンズフード着脱指標
1. c. フィルター取り付けネジ
1. **27** フォーカスリング
2. **28** ズームリング
3. **29** ズーム指標
4. **30** 固定リング
5. a. レンズ着脱指標
1. **31** 電子接点

はじめに

このたびはライカ TL2 をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ごさいます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、末永くご愛用ください。

付属品

本製品をご使用になる前に、下記の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

- a. 充電式リチウムイオンバッテリー BP-DC13
- b. バッテリーチャージャー BC-DC13
(着脱式電源プラグ 6 種類付属)
- c. USB ケーブル タイプ C
- d. ダミープラグ 2 個
(本体のキャリングストラップ取付け部に取付け済み)
- e. キャリングストラップ
- f. キャリングストラップ取り外しピン 2 個
- g. ボディキャップ
- h. アクセサリーシューカバー (本体に取付け済)
- i. 「お客様へのサービス」冊子
- j. 保証カード
- k. 取扱説明書 (本書)

注意

小さな付属品 (キャリングストラップ取り外しピンなど) を保管するときは、次の点に注意してください。

- 幼児の手の届くところに置かない
- 製品パッケージの所定の位置など、紛失しない場所に保管する

デザイン、仕様、その他は予告なく変更される場合があります。

アクセサリ

本製品の豊富なアクセサリについては、Leica Camera AG のホームページ（以下）をご確認ください。

www.leica-camera.com

スペアアクセサリ

	商品コード
ボディキャップ	16060
アクセサリシューカバー	470-701.801-007
ダミープラグ	470-701.001-020
キャリングストラップ取り外しピン	470-701.001-029
キャリングストラップ（シリコン製）	439-612.100-000
充電式リチウムイオンバッテリー [BP-DC13]（シルバー）	18772
充電式リチウムイオンバッテリー [BP-DC13]（ブラック）	18773
バッテリーチャージャー [BC-DC13]	470-701.022-000
電源プラグセット	470-701.801-005
USB ケーブル タイプ C	470-701.001-035

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。 VCCI-B

本装置は、VCCI 自主規制措置運用規程に基づく技術基準に適合した文言、またはマークを画面に電子的に表示しています。表示の操作方法は、取り扱い説明書の 7 に記載しております。

本製品の取り扱いについて

- 電子機器は人体に帯電した静電気の影響で不具合を起す場合があります。本製品は安全回路を装備していますが、安全のためアクセサリシューなどの端子部には手を触れないでください。
- 端子部をお手入れする際は、綿やリネンの布を使用してください。レンズ用のマイクロファイバークロス(合成繊維)は使用しないでください。お手入れの前には水道管などに触れて静電気を放電してください。また、端子部の汚れやさびつきを防ぐために、ボディキャップやアクセサリシューカバーを取り付けて、乾いた場所で保管してください。
- 指定以外のアクセサリは使用しないでください。故障、感電、ショートの原因となります。
- 本製品を分解・改造しないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにて専門の修理担当者にご依頼ください。

重要

ご使用中、本製品が熱くなることがあります。これは、センサーやプロセッサ、モニターなどの電子部品が操作時に熱を発生するためであり、性能・品質には問題ありません。連続撮影(連写)を立て続けに行なったり、長時間繰り返し行なうと、本製品が熱くなります。特に4K動画撮影時は温度が上がりやすくなります。場合によっては、機器保護のため撮影が停止することがあります。また、この症状は本製品を車内に置いていた場合や明るい日光にさらされた後など、カメラの温度がすでに高くなっていると起こりやすくなります。ご使用時は、このような事が起こり得るので、お気をつけください。

著作権、商標、ライセンスについて

- あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- 本製品に付属するすべてのソフトウェアの著作権その他一切の権利は、正当な権限を有する第三者に帰属します。
- 本製品は、お客様が個人的および非営利目的で以下の行為を行うために使用する場合に限り、AVC Patent Portfolio License に基づいてライセンスされています。
 - (i) AVC 規格に従って動画をエンコードすること(以下、このような動画を AVC ビデオといいます)
 - (ii) 個人的な使用および非営利目的でエンコードした AVC ビデオ、または AVC ビデオ提供のライセンスを取得している提供者から提供された AVC ビデオをデコードすることその他の使用については、明示的または黙示的を問わず、ライセンスは許諾されていません。詳細は MPEG LA, LLC のホームページ(www.mpegla.com)をご覧ください。営利目的での AVC ビデオ提供などのその他の使用には、MPEG LA, LLC から別途ライセンスを取得する必要があります。詳細は MPEG LA, LLC のホームページ(www.mpegla.com)をご覧ください。
- SD ロゴおよび USB ロゴは登録商標です。
- 本書に記載の名称、企業名、製品名は、当該各社の商標または登録商標です。



電気・電子機器の廃棄について

(EU 諸国および分別廃棄を実施するその他のヨーロッパ諸国のみ)

この装置には電気・電子部品が含まれているため、一般家庭廃棄物として廃棄することはできません。お住まいの自治体のリサイクル用の廃棄物回収場所にご相談ください。回収は無料となっています。

電池や充電電池を使用する装置を廃棄する場合は、電池や充電電池を取り外してから回収場所にお持ちいただくか、必要に応じてお住まいの自治体の規則に従って廃棄してください。廃棄についての詳しい情報は、お住まいの自治体、お近くの廃棄物回収業者、またはご購入店にお問い合わせください。

本文中の説明について

メモ

補足的な説明や情報を記載しています。

重要

この内容を無視して誤った取り扱いをすると、カメラ本体やアクセサリーの故障、画像データ破損のおそれがあります。

注意

この内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負うおそれがあります。

本製品の製造日は、保証カードまたは製品パッケージに貼付しています。本製品に貼付されている CE マークは、EC 指令に適合していることを示しています。詳しくはライカのホームページをご覧ください。

本製品が各国の技術基準に適合していることは、設定メニューからも確認できます。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **Regulatory information** を選択します。

目次

各部の名称	3
はじめに	4
付属品	4
アクセサリ	5
スベアアクセサリ	5

使用前の準備

キャリングストラップを取り付ける	10
バッテリーを入れる / 取り出す	11
バッテリーを充電する	12
SD カードを入れる / 取り出す	16
レンズを取り付ける / 取り外す	18
互換性のあるレンズ	18

基本的な操作・設定

カメラの電源を入れる / 切る (メインスイッチ)	20
設定ダイヤル	20
シャッターボタン	21
ファンクションボタン	21
タッチパネル	22
ツールバー	23
画面の表示を切り換える	24
露出モード / シーンモードメニュー	25
MY CAMERA メニュー	25
メインメニュー	25
メインメニューの構成	25
メインメニューからメニュー項目へのアクセス	25
メニュー項目を移動する	26
メニューの設定方法	27
タイルメニュー上で直接選択する	27
サブメニュー画面を表示して選択する	28
設定ダイヤルとタッチパネル操作で設定内容を選択する	29
MY CAMERA メニューをカスタマイズする	30

設定ダイヤル	32
設定ダイヤルの操作を無効 / 有効にする	32
設定ダイヤル (左) に機能を割り当てる	33

カメラに関する設定

カメラの表示言語 (LANGUAGE) を設定する	34
日付 / 時刻	34
オートパワーオフ	35
電子音	36
LCD 輝度 / LCD 色調整 / EVF 輝度 / EVF 色調整	36
オート液晶オフ	37

画像に関する設定

記録形式 / 圧縮率	38
ホワイトバランス	39
ISO 感度	40
JPG 画像プロパティ (フィルムモード)	40

その他の機能

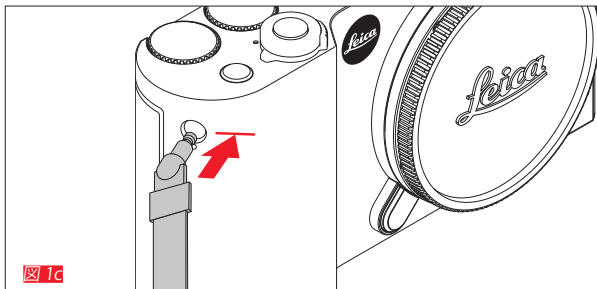
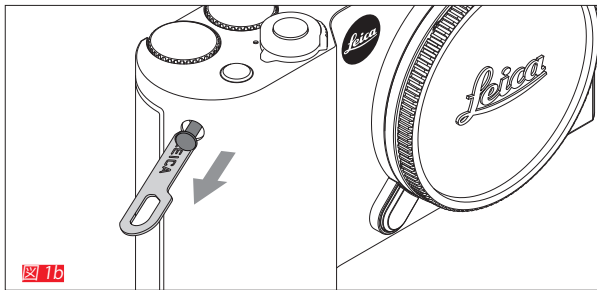
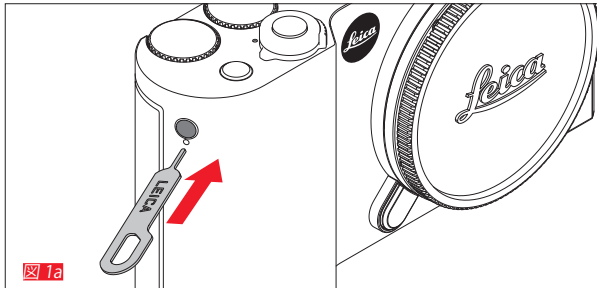
静止画手ぶれ補正	42
セルフタイマー	42
GPS で撮影した場所を記録する	43

撮影する (撮影モード)

1 コマ撮影 / 連続撮影	44
フォーカスモード	44
自動でピントを合わせる (オートフォーカス)	44
AF 補助光	45
AF モード	46
1 点測距 AF / スポット AF	46
タッチ AF / タッチ AF + リリーズ	48
多点測距 AF	49
顔認識 AF	49
手動でピントを合わせる (マニュアルフォーカス)	50
マニュアルフォーカスのアシスト機能	50

測光 / 露出	
測光モード	52
露出モード	52
プログラム AE (P)	53
絞り優先 AE (A)	54
シャッター優先 AE (S)	55
マニュアル露出 (M)	56
ヒストグラム	57
クリッピング	58
シーンモード	59
AF/AE ロック	60
露出補正	60
オートブラケット	61
フラッシュを使って撮影する	
対応フラッシュユニット	62
フラッシュユニットを取り付ける	62
フラッシュモード	63
フラッシュの到達距離	64
シンクロ設定	65
フラッシュ発光量調整	65
動画を撮影する	66
動画手ぶれ補正	67
撮影を開始する / 終了する	67
録音に関する設定 (風切音低減)	67
再生する (再生モード)	
再生モード	68
オートレビューを設定する	68
自動回転表示	69
表示画像を切り換える	69
画像を拡大 / 縮小表示する	70
画像を一覧表示する	70
拡大表示箇所を移動する	71
再生メニュー	72
スライドショー	72
画像をお気に入り設定する / お気に入りを解除する	73
画像をプロテクトする / プロテクトを解除する	73
画像を削除する	74
再生する記録メディアを選択する	76
画像をコピーする	76
動画を再生する	78
動画をカット編集する	80
その他	
好みの設定を保存する (ユーザープロフィール)	82
設定をリセットする	84
画像番号をリセットする	85
WIFI 機能を使う	86
画像をパソコンに取り込む	90
フォーマット (初期化) する	91
DNG (RAW) について	92
カメラ情報ファームウェアのバージョンを確認する	92
ご注意とお手入れ	93
付録	
着脱式電源プラグの種類	97
メインメニュー	98
露出モード	101
索引	102
テクニカルデータ	104
ライカサービスアドレス	106

キャリングストラップを取り付ける

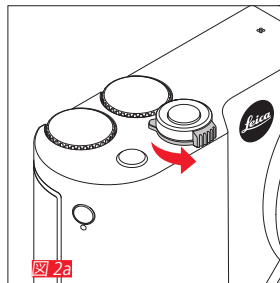


バッテリーを入れる / 取り出す

カメラの電源を切る 図 2a

バッテリーを入れる 図 2b

バッテリーを取り出す 図 2c

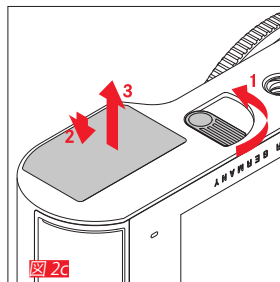
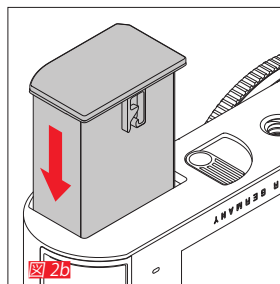


メモ

- バッテリーは基本的にお買い上げ時にはすでに充電されていますので、すぐに本製品をお使いになれます。
- バッテリースロットにはロック機構が備わっているため、取り出し口を下に向けたままバッテリー取り出しレバーをスライドさせても、バッテリーは落下しません。

重要

本製品の電源を入れたままバッテリーを取り出すと、本製品の設定内容が失われたり、画像データが消失したり、SDカードが故障したりすることがあります。



バッテリーを充電する

本製品をお使いになるには、充電式リチウムイオンバッテリーが必要です。バッテリーは、本製品に入れて付属の USB ケーブルを使って充電することも、本製品から取り出して付属のバッテリーチャージャーで充電することもできます。

本製品の取り扱いについて

- 本書またはライカで指定したバッテリー以外は使用しないでください。
- 付属のバッテリーを本製品以外には使用しないでください。また、本書の説明に従って正しく充電してください。
- 指定以外のバッテリーを使用したり、本書の説明に従わずにバッテリーを使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- バッテリーを直射日光の当たる場所や高温多湿の場所に放置しないでください。また、電子レンジや高压容器に入れしないでください。破裂や発火の原因となります。
- バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。
- 濡れたバッテリーや湿ったバッテリーは、絶対に使用したり充電したりしないでください。
- バッテリーの端子部は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。
- リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくいですが、クリップやアクセサリなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- バッテリーを落とした場合は、外装や端子部に破損がないか確認してください。破損したバッテリーを使用すると、本製品が故障するおそれがあります。
- バッテリーの使用中に異音、変色、変形、発熱、漏液などの異常に気づいた場合は、バッテリーを直ちに本製品か

ら取り出して交換してください。そのまま使用を続けると、バッテリーが過熱して破裂や発火の原因となります。

- バッテリーが漏液したり、異臭がしたりした場合は、直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液に引火して発火するおそれがあります。
- 本書またはライカで指定したバッテリーチャージャー以外は使用しないでください。指定以外のバッテリーチャージャーを使用すると、バッテリーの故障の原因となるだけでなく、最悪の場合は死亡や重傷を負うおそれがあります。
- 付属のバッテリーチャージャーでは、専用バッテリー以外は充電しないでください。また、バッテリーチャージャーを他の用途に使用しないでください。
- バッテリーチャージャーを使用するときは、コンセントの周りにほこりがたまっていないか確認してください。
- 充電中は熱が生じます。狭くて換気の悪い場所ではバッテリーを充電しないでください。
- バッテリーおよびバッテリーチャージャーを分解しないでください。修理はライカ指定のサービスセンターにご依頼ください。
- バッテリーは幼児の手の届くところに置かないでください。バッテリーを飲み込むと、窒息するおそれがあります。

不要になったバッテリーは、本書に記載されている情報に従って廃棄してください。

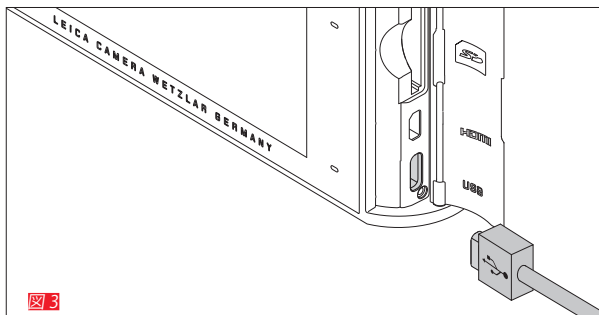
バッテリーから漏れた液が人体などに付着した場合の処置

- ・液が目に入った場合は、失明の原因となることがあります。目をこすらずに、直ちにきれいな水でよく洗い流し、医師の治療を受けてください。洗い終わったらすぐに医師の診察を受けてください。
- ・液が皮膚や衣服に付着した場合は、皮膚に傷害を起こすおそれがあります。直ちにきれいな水でよく洗い流してください。

メモ

- ・バッテリーはお買い上げ時にはすでに充電されていますが、フル充電はされていませんので、本製品を長時間使用するときには十分に充電してください。
- ・バッテリーは0～35℃の場所で充電してください。これ以外の温度では、まったく充電できないか、一度充電中になっても再度充電できない状態になります。
- ・リチウムイオンバッテリーは現在のバッテリー残量に関係なくいつでも充電することができます。残量が多い状態で充電すれば、短時間で充電が完了します。
- ・充電式リチウムイオンバッテリーを保管する場合は、容量がある程度残った状態で保管してください。長期間保管する場合は、過放電を避けるために、半年に1回、15分ほど充電してください。
- ・バッテリーは充電中に温かくなります。これは異常ではありません。
- ・新しいバッテリーは、フル充電してから完全放電させる(本製品に入れて使い切る)というサイクルを最初に2、3回行うことで、性能を十分に発揮できるようになります。その後このサイクルを25回に1回の間隔で行うことをおすすめします。

- ・充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。バッテリーを長持ちさせるために、夏季や冬期の自動車内など、極端に暑い場所や寒い場所に放置しないでください。
- ・バッテリーには寿命があります。最適な条件のもとで使用し続けても、数百回の充電を重ねると容量が低下し、使用時間が極端に短くなります。
- ・破損したバッテリーは、お住まいの自治体の条例や規則(7ページ)に従い、リサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。
- ・本製品内に、バッテリーを電源とするバックアップ電池を内蔵しています。バックアップ電池は、日付と時刻の設定を最大2日間保存するためのものです。バックアップ電池が放電してしまった場合は、バッテリーを入れて充電してください。充電を始めてから約60時間後にフル充電になります。充電中は本製品の電源を入れる必要はありません。ただし、バックアップ電池が放電してしまうと日付と時刻の設定が失われますので、再設定してください。
- ・本製品を長期間使用しない場合は、バッテリーを本製品から取り出してください。バッテリーを取り出すときは、メインスイッチで電源を切ってください。本製品は、電源を切っても設定を保存するために微量の無負荷電流を消費します。そのため、バッテリーを取り出さないうまま保管すると、数週間後にはバッテリーが過放電状態になり、電圧が大きく低下します。



バッテリーを充電する

USB ケーブルを使って充電する 図 3

メモ

- USBケーブルは、パソコンまたは標準的なUSBチャージャー（最大出力が500mAまたは1Aのもの）に接続してください。モニターやキーボードやプリンターのUSB端子やUSBハブには接続しないでください。
- 本製品の電源を切った状態でのみ充電できます。
- パソコンにUSB接続して充電しているときにパソコンがスリープ状態になると、充電は中止されます。

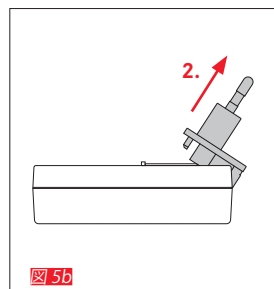
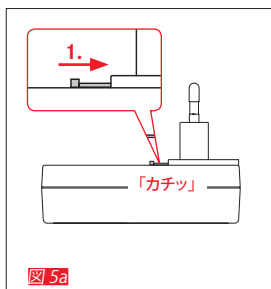
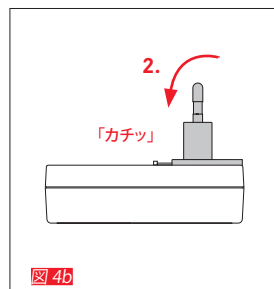
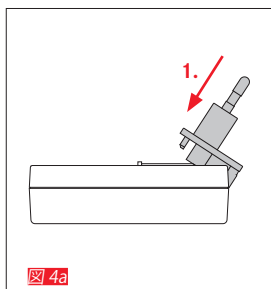
重要

- 必ず付属のUSBケーブルをお使いください。

バッテリーチャージャーで充電する 電源プラグを取り付ける / 取り外す

取り付けかた 図 4a/b

取り外しかた 図 5a/b



バッテリーをバッテリーチャージャーに取り付ける 図6**バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外す 図7****メモ**

- ・ バッテリーチャージャーには、お使いになる国に対応した電源プラグを取り付けてください。
- ・ バッテリーチャージャーは自動電圧切替式です。

充電ランプの表示

充電の状態は、LED ランプで確認できます。

USB ケーブルを使って充電する場合：

カメラの LED ランプ 図8

- 赤色に点灯：充電中
- 緑色に点灯：充電完了

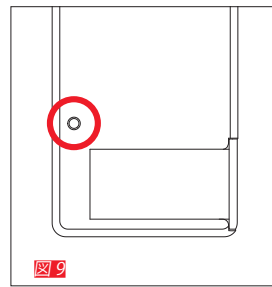
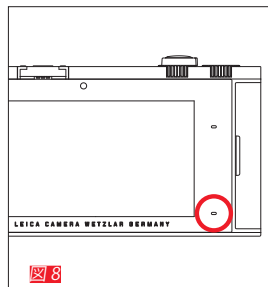
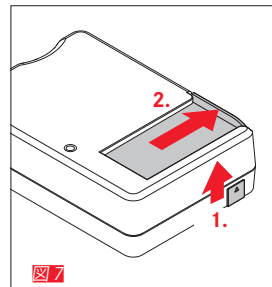
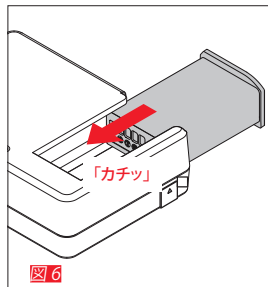
バッテリーチャージャーで充電する場合：

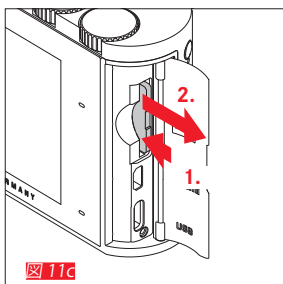
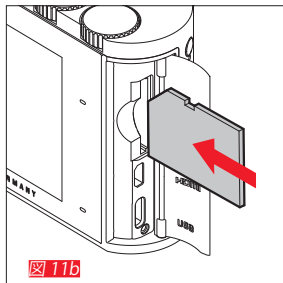
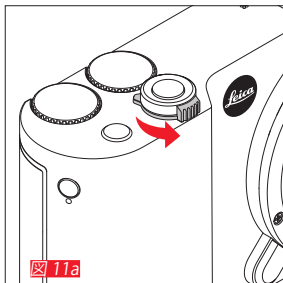
バッテリーチャージャーの LED ランプ 図9

- 赤色に点滅：充電エラー
- 点灯：充電中
- 緑色に点灯：充電完了

バッテリー残量表示 図10

バッテリー残量は液晶モニターで確認できます。残りの撮影可能枚数がわずかになると、表示が点滅します。表示が点滅したら、バッテリーを充電するか、バッテリーを交換してください。





SD カードを入れる / 取り出す

本製品では、SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、SDXC メモリーカードが使用できます。

なお、本書ではこれらのメモリーカードを「SD カード」と表記しています。本製品は 32GB の内蔵メモリーを搭載しているため、SD カードがなくても撮影できます。

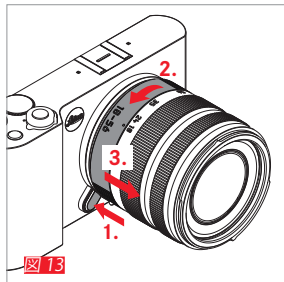
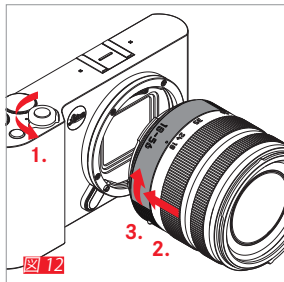
カメラの電源を切る 図 11a

SD カードを入れる 図 11b

SD カードを取り出す 図 11c

メモ

- LED ランプが点灯しているときは本製品が SD カードにアクセス中ですので、バッテリー /SD カードスロットを開けたり、バッテリーや SD カードを取り出したりしないでください。SD カードに記録したデータが破損したり、カメラが故障したりするおそれがあります。
- SD カードは書き込み防止スイッチを装備していますので、誤って画像を書き込んだり消したりしてしまう心配がありません。このスイッチは、カード本体の角が斜めになっていない側にあり、下側の「LOCK」の方向にスライドさせれば書き込み防止機能がオンになります。
- SD カードがうまく入らない場合は、SD カードの挿入方向が正しいか確認してください。
- 本製品に SD カードが入っているときは、画像は SD カードに記録されます。本製品に SD カードが入っていないときは、画像は内蔵メモリーに記録されます。
- 4K 動画の撮影には対応したスピードクラスのカードが必要になります (66 ページ)。UHS スピードクラス「UHS Speed Class 3」以上または、ビデオスピードクラス「V30」以上のカードをお使いください。対応していないカードを使った場合、内部バッファがいっぱいになると撮影が途中で止まる場合があります。
- SD カードは非常に多くのメーカーから販売されているため、すべての SD カードの動作確認は行っていません。通常は SD カードの品質が原因で本製品が故障することはありませんが、低価格 SD カードにはごくまれに品質基準を満たしていないものもあるため、ライカでは信頼性の高いメーカーの SD カードを使用することをおすすめします。
- 電磁波、静電気、カメラ本体や SD カードの故障により、SD カードのデータが破損・消失することがあります。データをこまめにパソコンに取り込み、バックアップをとることをおすすめします。



レンズを取り付ける 図12

レンズを取り外す 図13

メモ

- 本製品の内部にほこりなどが入り込むのを防ぐために、本製品には常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- レンズ交換はできるだけほこりの少ない場所で素早く行ってください。
- ボディキャップやレンズキャップを衣類のポケットに入れたままにしないでください。ポケット内側のほこりが付着し、カメラやレンズに取り付けた際に内部にほこりが入り込むことがあります。

互換性のあるレンズ

TL2レンズは、すべての機種でほぼ同じデザインを採用しています。フロントマウントには、レンズフードを取り付けるバヨネットを外側に、フィルターを取り付けるねじを内側に装備しています。また、鏡胴部にはフォーカスリングがあり、固定リングにはレンズ着脱時の目印の赤い指標が付いています。バヨネットマウント内側には電子接点端子が取り付けられており、カメラとレンズの間で、オートフォーカスや絞りの制御のためのデータのやり取りに使用されています。ズームレンズはズームリングとズーム指標を装備しています。ライカTLレンズに加えライカSLレンズも、本製品のLバヨネットに装着することにより、全ての機能をお使いいただけます。

被写界深度

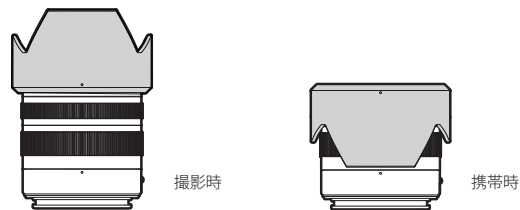
TL2 レンズは絞りリングを装備していないため、被写界深度目盛は付いていません。

ライカ TL2 用ズームレンズ使用時の測光 / 露出

ライカ TL2 用ズームレンズは焦点距離によって絞り値が変化します。ズームレンズで AF/AE ロックやプログラムシフトを使って撮影するときは、撮影する焦点距離に合わせてから AF/AE ロックやプログラムシフトの操作を行うと適正露出が得られます。詳細は、「測光 / 露出」(52 ページ～)の各項目をご覧ください。

対応しない外部フラッシュユニットを使用する場合、ズームリングによって絞り値が変わったときには、外部フラッシュ側でも絞り値を設定し直してください。

レンズフード



レンズは専用のレンズフードを付属しています。レンズフードを取り付けるバヨネットの形状は左右対称であるため、素早く簡単に取り付けることができます。また、向きを反対にして取り付ければコンパクトに収納できます。

レンズフードには、コントラスト低下の原因となる迷光や反射を防いだり、汚れや傷からレンズを保護したりする効果があります。

フィルター

TL2 レンズでは、ねじ込み式フィルターを使用できます。使用できるフィルターのサイズについては、各レンズの取扱説明書をご覧ください。

基本的な操作・設定

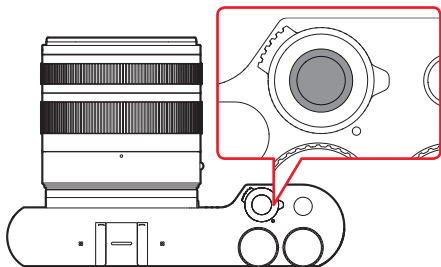


図 14

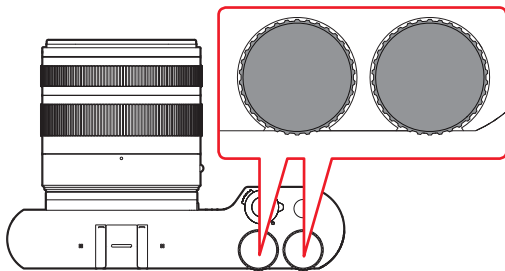


図 15

カメラの電源を入れる / 切る (メインスイッチ) 図 14

本製品の電源のオン / オフはメインスイッチで行います。

- 赤丸が見える状態 = 電源オフ
- 赤丸が見えない状態 = 電源オン
 - 電源がオンになると、液晶モニターが撮影モードの画面になります。

メモ

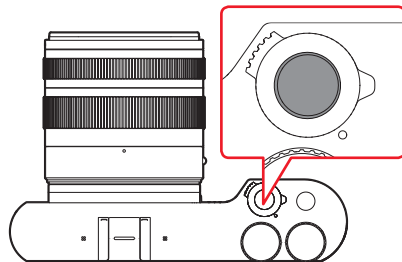
お買い上げ後に初めて電源をオンにしたときには、[PLAY ▶] が液晶モニターの右上に表示されます。[PLAY ▶] をタッチするとウェルカムムービーが再生されます。再生中に [SKIP ▶] をタッチしてムービーをスキップすることができます。その後、[LANGUAGE] のサブメニュー画面が表示されます。表示言語を設定すると、[日付 / 時刻 > タイムゾーン] のサブメニュー画面が表示されます。日付と時刻を設定すると、撮影モードの画面に切り換わります。

設定ダイヤル 図 15

2つの設定ダイヤルは、撮影モードや再生モード、メニュー操作に使用します。

シャッターボタン 16

シャッターボタンを押すと静止画が撮影できます。シャッターボタンの作動ポイントは2段階です。シャッターボタンを半押しする(最初の作動ポイントまで軽く押す)と、オートフォーカスが作動し、測光します。半押しを続けるとピントや露出をロックできます。また、オートパワーオフでスリープ状態でシャッターボタンを半押しすると、スリープから復帰し撮影可能状態に戻ります。シャッターボタンを全押しする(深く押し込む)と撮影します。



 16

ファンクションボタン 17

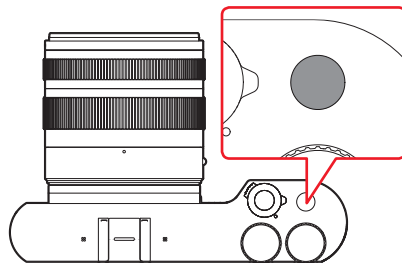
ファンクションボタンに機能を割り当てることができます。



動画撮影ボタン(初期設定)

再生ボタン

ファインダー表示切り換え



 17

割り当て方法や機能については、各々のセクションで説明しています。



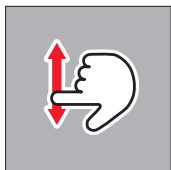
タッチ



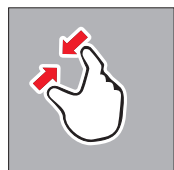
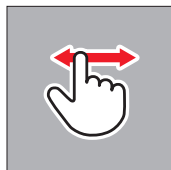
ダブルタップ



長押し→
ドラッグ&ドロップ



スワイプ



ピンチイン



ピンチアウト

タッチパネル

本製品の主な操作方法は、タッチパネル液晶モニターに指で触れて操作します(左の図を参照)。

メモ

タッチパネルは指で軽く触れるだけで操作できます。強く押す必要はありません。

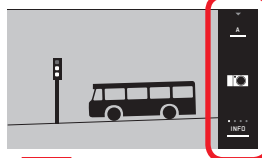
ツールバー 18a/b

画面の右端にはツールバーが表示されます。メニューはこのツールバーから呼び出します。ツールバーを誤って操作することがないように、ツールバーの操作を無効にすることもできます(他のタッチ操作は行えます)。

ツールバーの操作を無効にする 19a/b

ツールバーの操作を有効にする 20a/b

撮影する(撮影モード)



 18a

画像を再生する(再生モード)



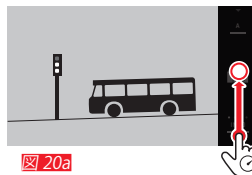
 18b



 19a



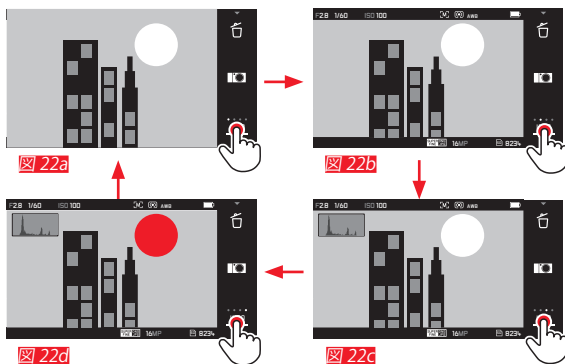
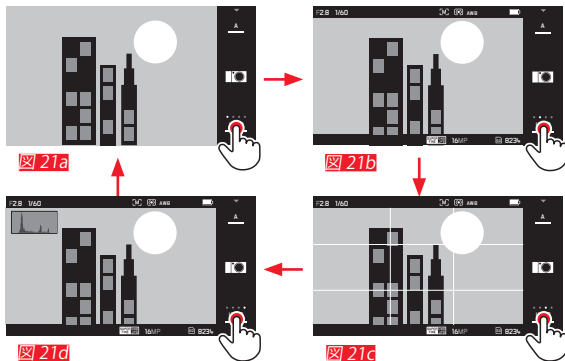
 19b



 20a



 20b



画面の表示を切り換える

INFO をタッチすると、画面に表示される情報を切り換えることができます。

撮影モード 図 21a-d

- ☞ × 1 回：情報表示 (画面上部と下部に表示)
- ☞ × 2 回：情報+グリッド表示
- ☞ × 3 回：情報+ヒストグラム表示
- ☞ × 4 回：情報なし (初期設定)

再生モード 図 22a-d

- ☞ × 1 回：情報表示 (画面上部と下部に表示)
- ☞ × 2 回：情報+ヒストグラム表示
- ☞ × 3 回：情報+ヒストグラム+クリッピング表示
- ☞ × 4 回：情報なし (初期設定)

メモ

- ・ マニュアルフォーカスする場合は、距離スケールが表示されます。
- ・ ヒストグラム表示とクリッピング表示の詳細については、57、58 ページをご確認ください。

露出モード/シーンモードメニュー 図 23a/b

▶ ツールバーの一番上にあるアイコンをタッチします。

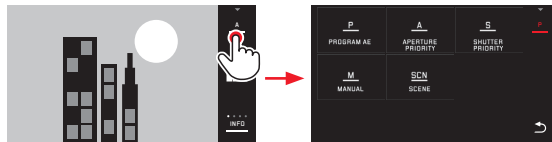


図 23a

図 23b

MY CAMERA メニュー 図 24a/b

▶ をタッチします。

メインメニューの項目を個別に設定できます。頻繁に使用するメニュー項目にすばやくアクセスできます。

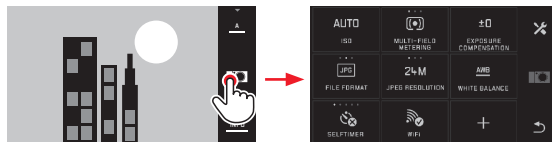


図 24a

図 24b

メインメニュー 図 25a-c

▶ **MY CAMERA** メニューのアイコン をタッチします。メインメニューからすべてのメニュー項目にアクセスできます。



図 25a

図 25b

メインメニューの構成

メインメニューの 9 つのタイルから、各機能のグループにアクセスできます。メニューの項目数はグループによって異なります。

メインメニューからメニュー項目へのアクセス 図 26a/b

呼び出したいメニュー項目のタイルをタッチします。

をタッチすると前の階層や設定に戻ります。またはメニューを終了します。

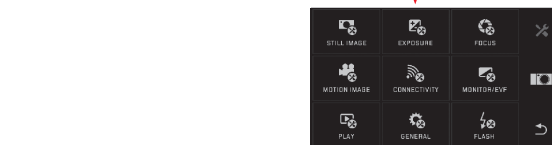


図 25c

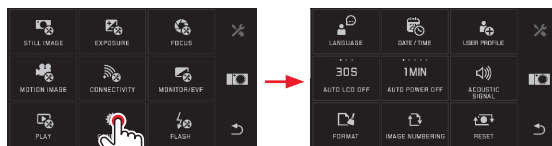
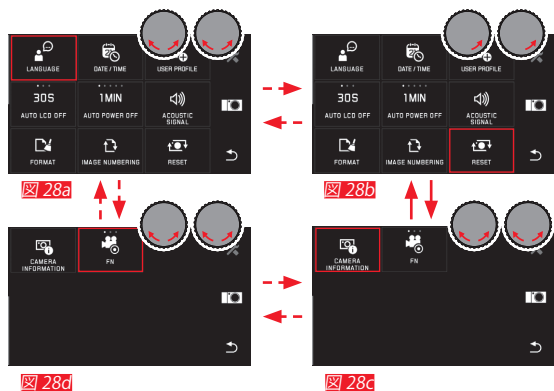
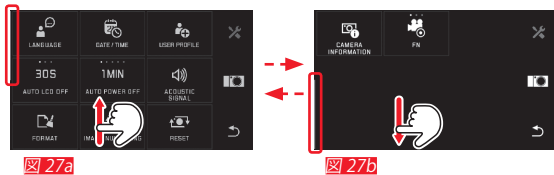


図 26a

図 26b



メニュー項目を移動する

メニュー、サブメニュー、メニュー項目を移動するには次の2通りの方法があります。

- タッチパネルをスワイプする (↓) 図 27a/b
- 設定ダイヤル(左右どちらの設定ダイヤルでも可)を回転させる (↑) 図 28a-d
- メインメニューのメニュー項目が9個以上ある場合、2ページに渡って表示されます。**MY CAMERA**メニューの場合も同様です。この場合、メニュー内での現在位置を示すスクロールバーが左に表示されます。

メモ

他の設定の影響などで使用できないメニュー項目はグレーで表示され、選べません。

メニューの設定方法

メインメニューのグループとメニュー項目は、タイル状に並べた形式で表示されます。

タイルメニューの見かた

☒ 29a サブメニューがない場合：最大5個までのオプションを直接設定可能


☒ 29a-d メニュー項目の配置を変更する

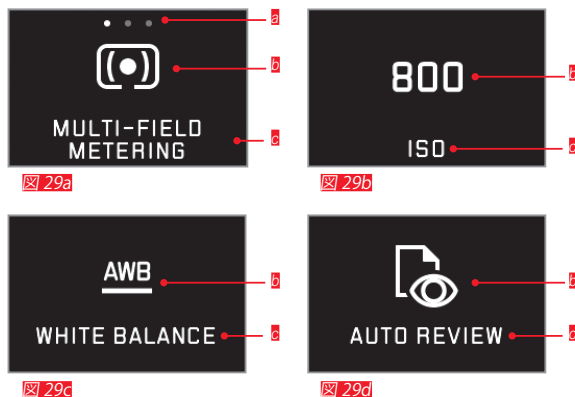
☒ 29a-d メニュー項目名と設定したメニュー機能

設定内容の選択方法は、メニュー項目によって異なります。

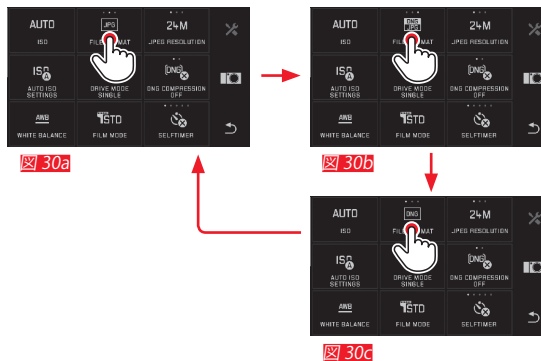
- タイルメニュー上で直接選択する
- サブメニュー画面を表示して選択する

タイルメニュー上で直接選択する

タイルメニュー上の設定項目を直接タッチ  して選択する (☒ 30a-c)。



- ☒ 直接選択できるオプションとその数 (= 点の数)
- ☒ 選択したオプション・設定値のアイコンや略語
- ☒ 機能・タイルメニュー・選択したオプションの名前



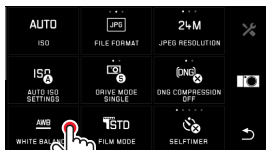


図 31a

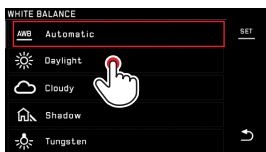


図 31b

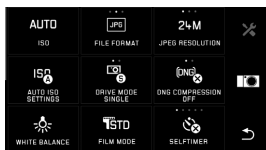


図 31d

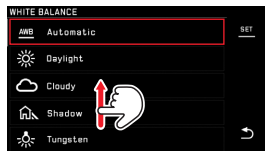


図 31c



図 31e

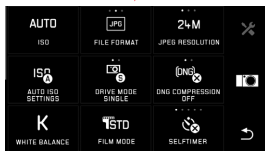


図 31f

サブメニュー画面を表示して選択する

前のページの **1** および **2** だけが表示されているメニュー項目では、サブメニュー画面を表示して設定内容を選択します。サブメニューの画面構成は、メニュー項目によって異なります。

サブメニューの表示について 図 31a-f

1画面に収まらないサブメニューは、リストをスワイプして表示させてください。

メモ

- 右のツールバーの **[SET]** をタッチすると、選んだサブメニューをすばやく設定できます。
- サブメニューが2ページに渡る場合、左のプログレッシブバーで今どのページにいるかがわかります。

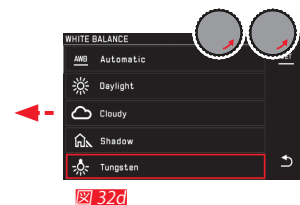
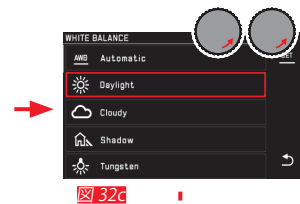
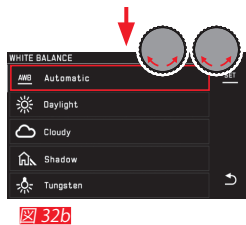
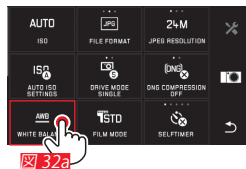
設定ダイヤルとタッチパネル操作で設定内容を選択する

図 32a-c

設定ダイヤル(左右どちらの設定ダイヤルでも可)を回しても、タッチ操作でもメニュー項目を移動することができます。メニュー項目の最初と最後はつながっていますので循環移動します。

メニュー画面について

- ・メニュー項目によってはここで説明している構成とは異なるものもあります。詳しくは、各項目のページをご覧ください。
- ・シーンモードを選択している場合や、ライカ ビゾフレックス(電子ビューファインダー：別売)を装着していない場合など、その影響を受けて設定変更が不可になるメニュー項目があります。その場合は、そのメニュー項目のアイコンがグレーで表示されます。
- ・電源を切るまでは前回表示したメニュー位置が記憶されます。再び呼び出すと前回と同じメニュー画面位置で表示されます。



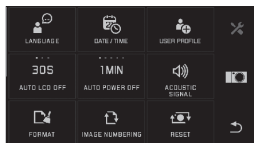


図 33a

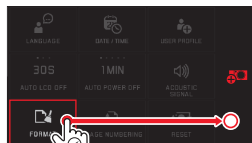


図 33b

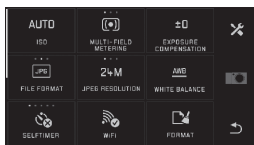


図 33d

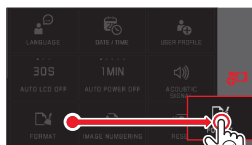



図 33c

MY CAMERA メニューをカスタマイズする

MY CAMERA メニューの初期設定では、いくつかのメニュー項目が登録されています。

MY CAMERA メニューは、メニュー項目の登録や削除、配置の変更ができます。よく使うメニュー項目を登録する、使いやすくレイアウトするなど、ユーザーのニーズに合わせてメニュー画面を自由にカスタマイズできます。


メニュー項目を登録する 図 33a-d

登録したいメニュー項目を長押ししてドラッグ  します。

メニュー項目の位置を変更する 図 34a-d

登録された項目は、アイコンをドラッグして配置を自由に変えることができます。

メニュー項目を削除する 図 35a-c

削除したいメニュー項目を  にドラッグします。

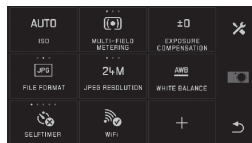


図 34a



図 34b

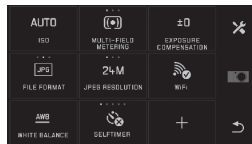


図 34c

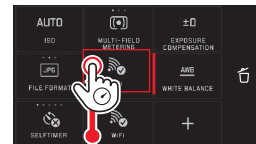


図 34d

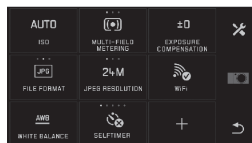


図 35a

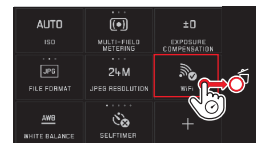


図 35b

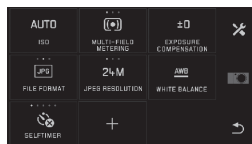


図 35c

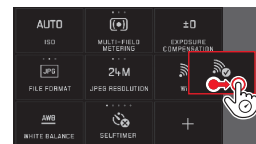


図 35d

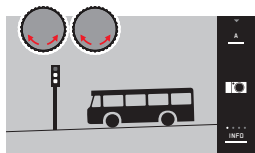


図 36a

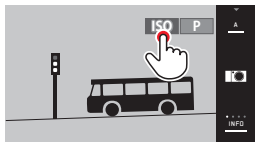


図 36b

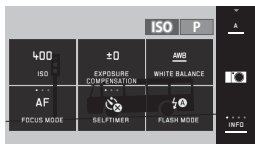


図 36c

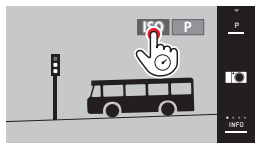


図 37a



図 37b

設定ダイヤル

露出モードが絞り優先 AE、シャッター優先 AE、プログラム AE のときは、右の設定ダイヤルはそれぞれ絞り値の設定、シャッタースピードの設定、プログラムシフトに使用します。これらの露出モード時、左の設定ダイヤルを使って設定できる機能を 6 つ (図 36c) のの中から選択できます。初期設定は ISO です。

設定ダイヤルのメニューを表示する 図 36a-c

左右どちらかの設定ダイヤルを 1 クリック回すと、設定ダイヤルに割り当てられている機能が表示されます。左の表示 (機能名) をタッチすると、設定ダイヤルメニュー (割り当てることができる機能のリスト) が表示されます。

設定ダイヤルの操作を無効 / 有効にする 図 37a/b

設定ダイヤルに割り当てられている機能を長くタッチすることで、設定ダイヤルの機能を無効 / 有効にすることができます。この操作は左右どちらの設定ダイヤルにおいても利用できません。

設定ダイヤル(左)に機能を割り当てる

タッチパネル操作で選択する [図 38a/b](#)

設定ダイヤルとタッチパネル操作で選択する [図 39a-f](#)

メモ

タッチパネル操作で選択する場合は、赤枠の表示がなくてもタッチして選択できます。

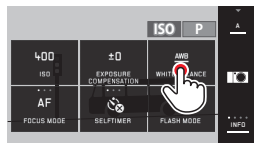


図 38a

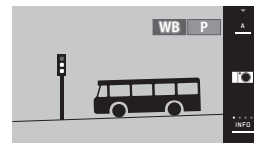


図 38b

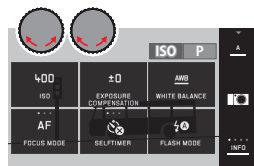


図 39a

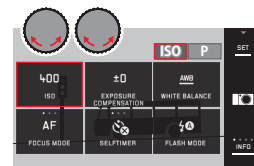


図 39b

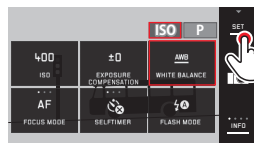


図 39c

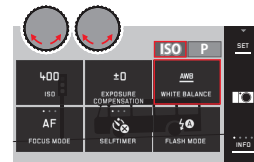


図 39d



図 39e

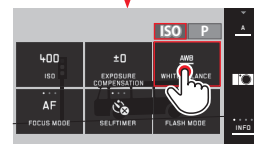




図 39f

カメラに関する設定

カメラの表示言語 (LANGUAGE) を設定する

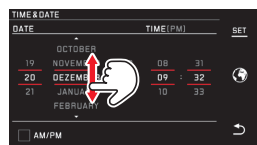
- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で言語を選択します。

日付 / 時刻

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。

日付と時刻を設定する

上下にスワイプして日付と時刻を設定します。

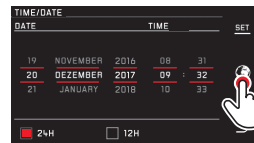




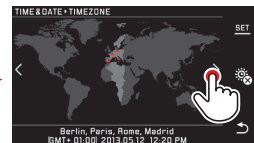
- ▶ 設定が完了したら **[SET]** をタッチして決定します。

タイムゾーンを設定する

タッチまたはドラッグすること、タイムゾーンがひとつ移動します。













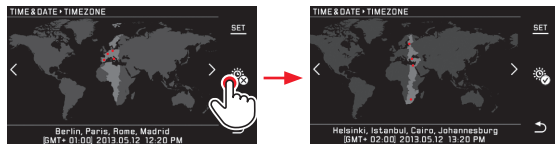
- ▶ 設定が完了したら **[SET]** をタッチして決定します。

時刻の表示形式を設定する





- ▶ 設定が完了したら **[SET]** をタッチして決定します。

サマータイムを設定 / 解除する  43a/b 43a 43b

-  = off,  = on
- ▶ 設定が完了したら **[SET]** をタッチして決定します。


メモ

日付と時刻の設定は、バッテリーが入っていない場合やバッテリー残量がなくなっても、カメラに内蔵されたバックアップ電池により約2日間は保存されます。

オートパワーオフ

バッテリーの消耗を防ぐために、一定時間カメラを操作しないと自動的に電源をオフ(スリープ)にします。設定できる時間は、1分/2分/5分/10分/20分です。



- ▶ メインメニューの  **GENERAL** をタッチします。

- ▶  **2MIN**
AUTO POWER OFF タイルメニューをタッチします。

メモ

- スリープからの復帰は、シャッターボタンを半押しするか、メインスイッチで電源を入れ直します。

電子音

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **[音量]**、**[クリック音]**、**[SD カード警告]**、**[合焦音]** をタッチし、次のサブメニュー画面で **[ON]**、**[OFF]**、**[低]**、**[高]** 選択します。





LCD 輝度 / LCD 色調整 / EVF 輝度 / EVF 色調整

液晶モニターやビゾフレックス (電子ビューファインダー：別売) の明るさと色合いを調節できます。

メモ

- ここでは液晶モニターを例に説明していますが、設定方法は電子ビューファインダー (**[EVF 輝度]** および **[EVF 色調整]**) も共通です。
[EVF 輝度] および **[EVF 色調整]** は電子ビューファインダー装着時のみ設定できます (未装着時はタイルメニューのアイコンがグレーで表示されます)。
- 電子ビューファインダーは接眼部にアイセンサーを搭載しています。ファインダーをのぞくと表示が自動的に液晶モニターからファインダーへ切り換わります。ファンクションボタンを使ってファインダー表示にすることもできます (次ページ参照)。

明るさを調節する

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  または  タイルメニューをタッチします。
- ▶ **[AUTO]** は周囲の光量に応じて明るさが自動調節されます。または、
- ▶ サブメニュー画面で、スライドバーをドラッグ  するか、どちらかの設定ダイヤルを回して、スケールを調整し希望の明るさに設定します。


色あいを調整する 図44

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  または  タイルメニューをタッチします。



図44

1. カーソル(現在の設定)
2. 色合い(Y: イエロー、G: グリーン、B: ブルー、M: マゼンタ)
3. 設定リセット(カーソルを中央に戻す)

- ▶ カーソルを希望の色合いの方向にドラッグ  します。設定ダイヤルを回して移動することもできます。設定ダイヤル(左)は上下、設定ダイヤル(右)は左右に移動します。
 - カーソルを移動すると画面の色合いが変わります。

ファインダー表示に切り替えるボタンを常時設定しておく

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  をタッチして、 を選択します。

メモ

この機能がアクティブの場合、ビューファインダーをのぞいているかどうかに関わらず、ファンクションボタンを押すとモニター表示が消えます。もう一度ファンクションボタンを押すと、ビューファインダー/モニターの自動切換が働きます。

オート液晶オフ

バッテリーの消耗を防ぐため、一定時間カメラを操作しないと自動的に液晶モニターを消灯します。また、シャッターボタンを半押しすれば点灯状態に戻せます。液晶モニターが点灯したままになるよう設定することもできます。


- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューで時間を選択します。

画像に関する設定

記録形式 / 圧縮率

JPG 形式 **[JPG]**、および標準の RAW データ形式 **[DNG]** (デジタルネガティブ) が選択できます。別々に使用することもできますが、両方同時に記録することもできます。

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューで記録形式を選択します。

DNG 圧縮

DNG 形式では、非圧縮、またはファイルサイズを小さくする場合はロスレス圧縮を選択できます。

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューで DNG ファイルの圧縮の設定を選択します。

メモ

圧縮された画像のファイルサイズは被写体の絵柄によって大きく変化します。液晶モニターに表示される撮影可能枚数は、一般的 (平均的) な画像のファイルサイズから割り出した数値です。

JPG 記録画素数

JPG 画像の記録画素数を、6M、12M、24M (M = メガピクセル) の中から選択します。画像の用途やメモリーカード容量に合わせて最適な解像度を選んでください。

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューで JPG 記録画素数を選択します。

メモ

DNG (RAW) 画像は、この設定に関わらず常に最大 (24M) で記録されます。

ホワイトバランス




撮影場所の光の状況(光源)に合わせて色合いを調整します。画像の色合いが不自然な場合などに設定してください。本製品では、下記のモードから設定できます。

1. **オート** 自動調整
2. **晴天**：晴天の屋外で撮影するとき
3. **くもり**：くもりの屋外で撮影するとき
4. **日かげ**：屋外の日かげで撮影するとき
5. **白熱灯**：白熱灯下で撮影するとき
6. **フラッシュ**：フラッシュを使用して撮影するとき
7. **マニュアル1**：白の基準を手動で設定する
8. **マニュアル2**：白の基準を手動で設定する
9. **色温度**：色温度を数値で設定する

ホワイトバランスを設定する

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面でホワイトバランスの設定を選択します。




ホワイトバランスの基準を手動で設定する

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **[マニュアル1]** または **[マニュアル2]** の右にある  をタッチします。
 - ・ (画面中央に黄色い枠が表示されます)
- ▶ 白またはグレーの無地の被写体を黄色い枠いっぱいに入れて映します。
- ▶ 設定が完了したら **[SET]** をタッチして決定します。

シャッターが切れて、ホワイトバランスの値が保存されます。

設定した値を呼び出すには、**[マニュアル1]** または **[マニュアル2]** を選択します。

色温度を設定する

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **[色温度]** の右にある  をタッチします。
- ▶ 次のサブメニュー画面で色温度を設定します。

メモ

設定ダイヤル(左)に **[WB]** を割り当てているときは、ダイヤルを回して直接ホワイトバランスを選択することができます。



ISO 感度

撮影場所の明るさに応じて ISO 感度を変更します。ISO オート (自動設定) の他、ISO100 ~ 50000 の間で設定します。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **[ISO オート設定]** または数値で ISO 感度を選択します。

設定ダイヤル(左)に **ISO** を割り当てているときは、ダイヤルを回して直接 ISO 感度を選択することができます。ISO 感度は高くなるほどノイズが目立つようになります。

[ISO オート設定] では、自動設定される ISO 感度の上限と、ISO 感度を切り替えるシャッタースピードを設定します。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **[最長シャッター速度]** (ISO 感度を切り替えるシャッタースピード) または **[最大 ISO 設定]** (自動設定される ISO 感度の上限) を選択します。
- ▶ 次のサブメニュー画面で設定内容を選択します。

JPG 画像プロパティ (フィルムモード)

本製品では、コントラスト、シャープネス、彩度を調節できます。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面でフィルムモードを選択します。

[標準]、**[ビビッド]** (彩度が高め)、**[ナチュラル]** (彩度とコントラストがやや低め) のカラーのモードと **[白黒ナチュラル]** (標準) と **[白黒ハイコントラスト]** (コントラストが高め) から選択できます。

メモ

フィルムモードは JPG 画像にのみ適用されます。DNG (RAW) 画像は、撮像素子が出力したデータをそのまま記録するため、これらの効果は適用されません。

コントラスト/シャープネス/彩度を調節する

各フィルムモードでコントラスト、シャープネス、彩度を好みに調節することができます。

- コントラスト：明暗差に強弱をつけます。
- シャープネス：輪郭強調の強弱を調節します。
- 彩度：色彩の鮮やかさを調節します。

- ▶ メインメニューの **STILL IMAGE** をタッチします。
- ▶ **1510** **FILM MODE** タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で、選択するフィルムモードの右にある **>** をタッチします。
- ▶ 次のサブメニュー画面 (図 45) で、スライダーをドラッグして設定します。



図 45

- ▶ 設定が完了したら **[SET]** をタッチして決定します。
- 「コントラスト/シャープネス/彩度」のいずれかを調整すると、**[フィルムモード]**の最初のサブメニューで表示される設定項目にアスタリスクがつきます。(例：**標準***)

その他の機能

静止画手ぶれ補正

光学手ぶれ補正機能を強化したライカ SL レンズを使用すると、レンズ内蔵の手ぶれ補正機能により、遅いシャッタースピードでもブレを抑えて撮影できます。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューで **【静止画手ぶれ補正 ON】** を選択します。


メモ


- TL レンズ使用時は、静止画手ぶれ補正は使えません。メニューはグレーで表示され、設定できません。
- 光学手ぶれ補正機能について詳しくは、レンズの取扱説明書をご確認ください。

セルフタイマー

セルフタイマーは、2 秒または 12 秒が設定できます。手ぶれを防ぎたいときには 2 秒を、グループ写真で撮影者と一緒に写る場合は 12 秒を使用すると便利です。セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。また、セルフタイマーを一度だけ行うか、数回行うかを選択できます。〔**【ホールド】** オプション〕

- ▶ メインメニューの  をタッチします。

- ▶  タイルメニューで設定時間を選択します。

設定ダイヤル(左)に  を割り当てているときは、ダイヤルを回して直接セルフタイマーを設定することができます。(32 ページ参照)

-  または 、、 が表示されます。

セルフタイマーを使って撮影する

- ▶ シャッターボタンを全押しして撮影します。
 - セルフタイマー作動中は、LED が次のように点滅します。
 - 12 秒：最初の 10 秒はゆっくり点滅し、残りの 2 秒は速く点滅します。
 - 2 秒：速く点滅します。
 - カウントダウンのメッセージが液晶モニターに表示されます。


メモ

- セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、経過時間をリセットしてもう一度最初から作動します。作動中のセルフタイマーを中止するには、本製品の電源を切ってください。
- **【ホールド】** オプションを有効にすると、カメラの電源を切っても設定は維持されます。
- 連続撮影、オートブラケット撮影ではセルフタイマーを使用できません。1 コマ撮影になります。
- セルフタイマー撮影時のピントと露出の決定は、セルフタイマー作動開始時ではなく撮影直前に行われます。

GPS で撮影した場所を記録する

GPS (グローバル・ポジショニング・システム) 機能が内蔵されたビゾフレックス (電子ビューファインダー：別売) を取り付けると、撮影した場所の位置情報を画像に記録することができます。

GPS 機能を使う

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューで **[ON]** または **[OFF]** を選択します。
 - GPS アイコンが液晶モニターに表示されます。
 - 表示なし：GPS オフ
 - ：GPS オン、GPS 電波を受信できない状態
 - ：GPS オン、GPS 電波を受信中

メモ

- GPS 機能を使用するには、野外の空のひらけた場所でビゾフレックスを上空に向けてください。(地球上のどの場所でも 9 基から電波を受信することができますが、測位するには最低 3 基からの電波が必要です)
- ビゾフレックス (電子ビューファインダー) を手や金属製のもので覆うと GPS の電波を受信できません。

- 次のような場所および状況下では、GPS 衛星からの電波を正しく受信できないため、測位できない場合や誤差が生じる場合があります。
 - 屋内
 - 地下
 - 森の中
 - 乗り物で移動中
 - 高層ビルの近くや深い谷間
 - 高圧電線の近く
 - トンネルの中
 - 1.5GHz 帯の携帯電話の近く

GPS 機能に関する安全上のご注意

本製品を航空機内に持ち込むときは、離着陸時に GPS 機能をオフにしてください。また、病院などの無線通信が禁止されている場所に持ち込むときも、GPS 機能をオフにしてください。

重要 (外国における GPS 機能の使用規制)

一部の国や地域では、GPS 機能と GPS 関連機器の使用が規制されています。本製品を外国に持ち込む場合は、GPS 機能付きカメラについて持ち込み制限などがないか、大使館や旅行代理店にご確認ください。

撮影する (撮影モード)

1 コマ撮影 / 連続撮影

本製品では、1 コマ撮影と連続撮影ができます。

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューで **1 コマ撮影** または **連続撮影** を選択します。

メモ

- 連続撮影時はフラッシュユニットは発光しません。
- セルフタイマー使用時は 1 コマ撮影に切り替わります。
- 連続撮影時の最初は最大 7 コマ / 秒で撮影されますが (連続撮影可能コマ数 29 コマ)、バッファメモリーが一杯になると、それ以降は速度が低下します。
- 連続撮影では、最後に撮影した画像が液晶モニターに表示されます。

フォーカスモード

オートフォーカスとマニュアルフォーカスから選択します。**AFs** (シングル、オートフォーカス) と **AFc** (コンティニユアス、オートフォーカス) の 2 つの自動モードがあります。どちらも撮影距離の範囲を設定でき、接写時などすばやくフォーカスしたいときなどには短く設定できます。

自動でピントを合わせる (オートフォーカス)

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューでフォーカスモードを選択します。

設定ダイヤル (左) に **AF** を割り当てているときは、ダイヤルを回して直接 AF モード **AFs** / **AFc** または MF モード **MF** を選ぶことができます。

- 設定したモードは、モニターに表示されます。

シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが自動的に行われピントが固定されます。(AF ロック)

- ピントが合って固定されると、次のように合図されます。
 - AF フレームが緑色に変わります。
 - 多点測距 AF モード時は、緑色の AF フレームが表示されます (最大 9 点)。
 - 合焦音が鳴ります (設定時のみ)。

メモ

- AF ロック時や、タッチ AF でピントを固定した後に、レンズのフォーカスリングを回して手動でピントを調節することができます。
- ピントと同時に露出も固定されます (AE ロック)。
- 次の被写体や撮影環境では、ピントが合いにくいことがあります。
 - 動きの速い被写体。コントラストの低い被写体。被写体までの距離が近すぎる時。
 - 暗い場所。明るすぎる場所。ガラス越し。
 ピントが合わない場合は、次のように合図されます。
 - AF フレームが赤色に変わります。
 - 多点測距 AF 時は、赤色の AF フレームが 1 点だけ表示されます。
- ライカ L 用 M レンズアダプター (別売) または、L 用 R レンズアダプター (別売) 使用時はマニュアルフォーカスになります。

重要

ピントが合わなくても、シャッターボタンを全押しして撮影できます。

AF 補助光

暗い場所で AF 補助光を点灯し、オートフォーカスでピントを合わせやすくするように設定できます。シャッターボタンを半押しすると、自動的に AF 補助光が発光します。

▶ メインメニューの  をタッチします。



▶  タイルメニューで [AF 補助光] のオン / オフを選択します。

メモ

AF 補助光の有効距離は約 4m です。

AF モード

オートフォーカスのピント合わせ方法を、被写体や撮影状況、構図に合わせて5種類のモードから設定します。・

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で AF モードを選択します。

1 点測距 AF/ スポット AF

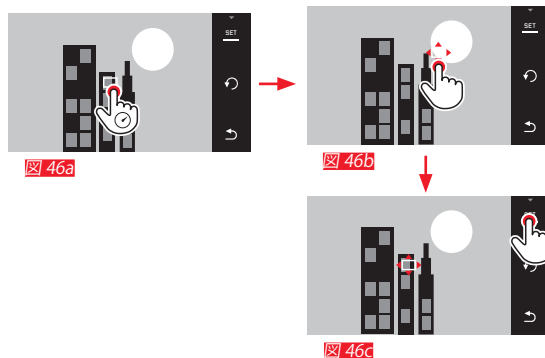
被写体の特定の部分にピントを合わせます。

- ・ ピントを合わせる部分に AF フレームが表示されます。
- スポット AF モードは、1 点測距 AF より小さい範囲にピント合わせを行います。




これらの AF モードでは、AF フレームの位置を変えることもできます。

AF フレームの移動は、AF モードのメニューからでも、撮影モード時の画面からでも行えます。

AF フレームを移動する (撮影モード時)



AF フレームを移動する (メニューから)

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューのサブメニュー画面で、1 点測距 AF、スポット測距 AF の右にある  をタッチします。

次のいずれかの方法で AF フレームを移動します。

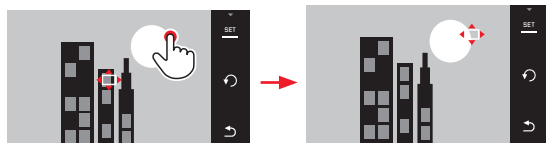


図 47a



図 47b



図 47c



図 47d



図 47e

AF フレームを中央に戻すには、次の操作を行います。

図 48a/b

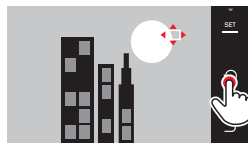


図 48a

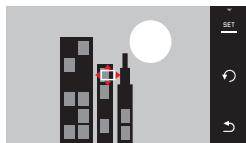


図 48b

メモ

移動した AF フレームは、本製品の電源をオフにしても、AF モードを変更してもその位置が記憶されます。

撮影する

被写体または撮影したい場所に AF フレームを合わせます。
シャッターボタンを半押しします

- ・ 測距して被写体をロックします。

シャッターボタンを半押ししたままにします。

- ・ ロックした被写体を AF フレームが追尾します。
シャッターボタンを全押しして撮影します。

12.


メモ

- ・ **AFs/AFc** のどちらでも被写体追尾は作動します。
- ・ シャッターボタンを離すと追尾は無効になります。その場合、直前の場所で測光します。

タッチ AF / タッチ AF + レリーズ

液晶モニターをタッチして AF フレームを移動させます。AF フレームのサイズは 1 点測距 AF と同じです。

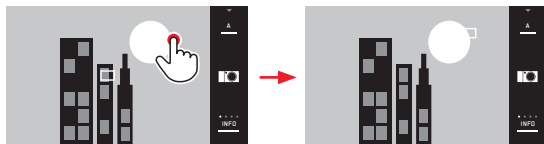
▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューをタッチします。

▶ サブメニュー画面で **「タッチ AF」** または **「タッチ AF + レリーズ」** を選択します。

AF フレームを移動する

▶ 液晶モニター上でピントを合わせたい場所をタッチします。



 49a

 49b

- タッチした場所に AF フレームが移動し、測距が始まります。

タッチ AF 設定時の注意点



タッチ AF では、液晶モニターをタッチした直後にオートフォーカスが作動します。シャッターボタンを半押ししてもオートフォーカスは作動しません。ピントを合わせ直す場合には、もう一度液晶モニターをタッチしてください。**「タッチ AF + レリーズ」** モードでは、液晶モニターをタッチしてピントを合わせ、自動的に撮影することができます。

メモ

移動した AF フレームは、本製品の電源をオフにしても、AF モードを変更してもその位置が記憶されます。



多点測距 AF

49 点の AF フレームを利用して、最も近い位置にピントを合わせを行う、スナップ撮影に最適なモードです。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **[多点測距]** を選択します。



顔認識 AF

人物の顔を認識してピントを合わせます。認識できない場合は、多点測距 AF に切り換わります。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **[顔認識]** を選択します。

手動でピントを合わせる (マニュアルフォーカス)

オートフォーカスでうまくピントが合わない場合や、AF ロックを使用せずに撮影距離を固定したい場合など、撮影状況に合わせてマニュアルフォーカスを選択することができます。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **[MF]** を選択します。

マニュアルフォーカスでは、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。液晶モニターに表示される被写体を確認しながらピントを合わせてください。

メモ




オートフォーカス時でも、シャッターボタン半押し中はマニュアルフォーカスが可能です。

マニュアルフォーカスのアシスト機能

マニュアルフォーカス時のピント合わせを補助する2つの機能があります。

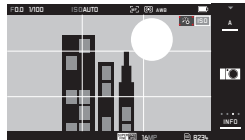
- ピントの合った被写体をマーキングする(フォーカスピーキング)：
ピントの合った部分が赤で表示されるので、最適な設定がわかります。
 - 拡大表示する：
被写体の細部を確認できるので、より正確にピントを合わせることができます。
- 初期設定はフォーカスピーキングが有効になっています。フォーカスピーキングをせずに拡大表示したり、フォーカスピーキングと拡大表示を同時に使用したりすることもできます。

アシスト機能を選ぶ

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶  で **[ON]** を選択します。

ピントの合わせかた

- ▶ 構図を決めます。



 50a

- ▶ レンズのフォーカスリングを回します。
 - 輪郭がはっきりしている(つまりコントラストが最もはっきりしている)部分がすべて赤で表示されます。また、画面を3倍に拡大表示することもできます。(前頁参照)。**[x6]**をタッチすると倍率が6倍になります。表示倍率は、タッチ操作で切り替えることができます。フォーカスリングを回した時は、前回使用した倍率で表示されます。フォーカスリングを回してから約5秒後、自動的に通常の表示に戻ります。シャッターボタン半押しでも通常の表示に戻ります。
- ▶ 被写体の細部にピントを合わせます。



図 50b

- 1 **x3** / **x6** 倍率変更
- 2 距離スケール：現在の設定をバーで表示(ステータス表示時のみに表示されます。「画面の表示を切り換える」をご確認ください。)

メモ


- フォーカスピーキングは被写体の明暗などのコントラストに基づいて表示しています。
- ライカL用 M レンズアダプター(別売)または、L用 R レンズアダプター(別売)使用時は、左の設定ダイヤルに **MFアシスト ON**、拡大表示 **3倍**、**6倍**または **OFF**の機能を割り当てることができます。
- AF ロック時や、タッチ AF でピントを固定した後に、レンズのフォーカスリングを回して手動でピントを調節することができます。

測光 / 露出

測光モード

測光方法を選択します。撮影状況に応じて、マルチ測光、中央重点測光、スポット測光から最適なモードを選んでください。

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューで測光モードを選択します。

マルチ測光 -

被写体の輝度差を分析し、カメラが持つ輝度分布パターンのデータと比較して最適な露出を算出します。

露出決定が難しい撮影状況下でも素早く簡単に撮影できますので、プログラム AE と組み合わせる場合に適しています。

中央重点測光 -

画面中央部に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。

周囲の明るさを考慮しながらも、AE ロックと組み合わせると主要被写体中心の露出で撮影する場合に適しています。

スポット測光 -

画面中央のごく狭い範囲だけを測光します。

周囲の明るさの影響を受けずに、被写体の一部分をピンポイントに測光して露出を決定します。

逆光時などの輝度差が激しい場合に、マニュアル露出との組み合わせが適しています。スポット測光の非常に小さな測光領域を活用することでそのような被写体の細部にも的を絞って測光を行うことができます。

露出モード

被写体や撮影スタイルに合わせて、4種類の露出モードから最適なモードを選ぶことができます。


メモ

- 被写体の明るさによっては、液晶モニターに表示される画像の明るさと、撮影した画像の明るさが異なることがあります。特に、暗い場所で遅いシャッター速度を使用する場合には、撮影画像よりも画面の表示が暗く見えることがあります。
- ライカ L 用 M レンズアダプター (別売) または、L 用 R レンズアダプター (別売) を介して M レンズ (別売) または、R レンズ (別売) を使用する場合は、絞り優先 AE とマニュアル露出のみ使用できます。プログラム AE、シャッター優先 AE、シーンモードは使用できません。これらのモードが設定されている場合は、自動的に絞り優先 AE に切り換わります。露出モード表示が「A」に変わり、絞り値の表示も「F0.0」に変わります。

プログラム AE (P)

カメラが自動的にシャッタースピードと絞り値を設定するモードです。

プログラム AE に設定する

- ▶ 露出(制御)モードメニューまたは、シーンモードメニューを表示します。
- ▶  タイルメニューをタッチします。

プログラム AE で撮影する

- ▶ シャッターボタンを半押しします。
 - シャッタースピードと絞り値が白色で表示されます。露出を制御できる範囲を超えると、シャッタースピードと絞り値が赤色で表示されます。

シャッタースピードと絞り値の組み合わせが適切である場合

- ▶ シャッターボタンを全押しして撮影します。

プログラムシフト

カメラが設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせを同じ露出のまま変更する機能です。素早く適正露出を得てから、撮影意図に合わせて撮影できます。

- ▶ プログラムシフトするには、設定ダイヤル(右)を回します。シャッタースピードを早くしたいときは、ダイヤルを左に回します。被写界深度を深くしたいときは、ダイヤルを右に回します。


プログラムシフトにおいて、露出(明るさ)は変わりません。また、シフトできる範囲には制限があります。

- プログラムシフトすると、シャッタースピードの表示に「+」が追加されます。撮影せず 12 秒経過すると、測光がオフになり、プログラムシフトが解除されます。また、誤って同じ設定で続けて撮影してしまわないように、撮影後にプログラムシフトは解除されます。

絞り優先 AE (A)

手動で設定した絞り値に応じて、適正露出になるようにカメラがシャッタースピードを自動設定します。絞り値によって被写界深度が変化するため、被写界深度を調節したいときに適しています。例えば、ポートレート撮影などで絞り値を小さく(絞りを開く)して被写界深度を浅くしたり、また風景撮影などでは絞り値を大きく(絞りを絞る)して被写界深度を深くすることができます。

絞り優先 AE に設定する

- ▶ 露出(制御)モードメニューまたは、シーンモードメニューを表示します。
- ▶  タイルメニューをタッチします。

絞り優先 AE で撮影する

- ▶ 設定ダイヤル(右)を回して絞り値を設定します。
- ▶ シャッターボタンを半押しします。
 - シャッタースピードと絞り値が白色で表示されます。露出を制御できる範囲を超えるとシャッタースピードと絞り値が赤色で表示されます。


シャッタースピードと絞り値の組み合わせが適切である場合

- ▶ シャッターボタンを全押しして撮影します。

シャッター優先 AE (S)

シャッタースピードを手動で設定し、カメラが自動的に絞り値をコントロールするモードです。シャッタースピードによって被写体のブレが変化するため、動きのある被写体を撮影する場合に適しています。シャッタースピードは、速くするほど被写体の動きを止めることができます。逆に遅くするとブレが目立ち、スピード感を表現することができます。

シャッター優先 AE に設定する

- ▶ 露出(制御)モードメニューまたは、シーンモードメニューを表示します。
- ▶  タイルメニューをタッチします。

シャッター優先 AE で撮影する

- ▶ 設定ダイヤル(右)を回してシャッタースピードを設定します。
- ▶ シャッターボタンを半押しします。
 - 露出を制御できる範囲を超えるとシャッタースピードと絞り値が赤色で表示されます。

シャッタースピードと絞り値の組み合わせが適切である場合


- ▶ シャッターボタンを全押しして撮影します。

マニュアル露出 (M)

シャッタースピードと絞り値を手動で設定して撮影します。シャッタースピードと絞り値の組み合わせを撮影者が自由に選択したいときや、異なる構図を同じ露出で続けて撮影したいときに使います。

マニュアル露出に設定する

- ▶ 露出(制御)モードメニューまたは、シーンモードメニューを表示します。

- ▶  タイルメニューをタッチします。

マニュアル露出で撮影する

- ▶ 設定ダイヤル(左)を回して絞り値を設定します。
- ▶ 設定ダイヤル(右)を回してシャッタースピードを設定します。
- ▶ シャッターボタンを半押しします。
 - シャッタースピードと絞り値が白色で表示されます。露出インジケータが表示されます。表示の範囲は±3EV(1/3EV ステップ)です。設定された露出が±3EVの範囲内にあるときは目盛が白色で表示されます。その範囲を超えると目盛が赤色になります。
- ▶ 適正露出にするには、インジケータの中央「0」になるように、シャッタースピードと絞り値を調節します。

シャッタースピードと絞り値の組み合わせが適切である場合

- ▶ シャッターボタンを全押しして撮影します。

メモ

モニター画面には、マニュアル露出モード設定時の露出がシミュレーションされます。


ヒストグラム / クリッピング表示

2種類の表示により、露出を正確に合わせるだけでなく、思い通りの演出を簡単に実現できます。2つを併用することで、すばやく簡単に露出設定を確認できます。


ヒストグラム

ヒストグラムとは、画像の輝度分布を示すグラフです。横軸はピクセルの明るさを、縦軸はピクセル数を表します。屋外など周囲が明るすぎて液晶モニターが見にくい場合でも、このグラフから露出状況を判断することができます。ヒストグラムは撮影モードと再生モードのどちらでも表示できます。

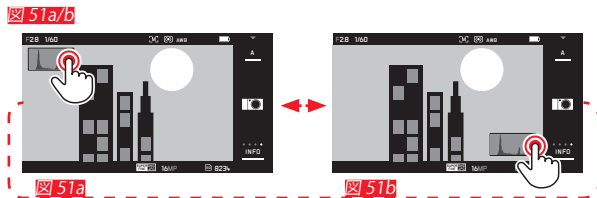
撮影モードで表示する [24 ページ](#) [図 21d](#)

- ▶ **INFO** を × 3 回 



再生モードで表示する [24 ページ](#) [図 22b/c](#)

- ▶ **INFO** を × 2 回 

ヒストグラムは画面の右下に移動させることもできます。




ヒストグラムは、輝度分布を明るさのみで表示する[BW]と、RGBの3原色表示の[RGB]から選べます。

- ▶ メインメニューの  **PLAY** をタッチします。
- ▶  タイルメニューでヒストグラムの表示形式を選択します。

クリッピング

再生時、「白飛び (露出オーバー)」している部分を赤点減で表示します。露出設定を調整するときの指標になります。

▶ **INFO** を × 3 回 


[24 ページ](#)  [22d](#)

メモ (ヒストグラムとクリッピング表示について)

- フラッシュを使用する場合、撮影前に表示されるものは定常光のヒストグラムですので、フラッシュ撮影した画像のヒストグラムとはグラフの形状が異なります。
- ヒストグラム表示は、表示させるアプリケーション等で差異が出る場合があります。目安としてお使いください。
- 撮影時と再生時のヒストグラムは多少異なることがあります。
- ヒストグラムとクリッピング表示は現在表示されている部分が対象です。
- ヒストグラムとクリッピング表示は全体表示、または部分表示の時のみ有効です。9つのサムネイル表示時は無効です。
- 動画はクリッピング表示できません。


シーンモード

本製品には、撮影状況に合わせてシーンモードを選ぶだけで、気軽に撮影できる便利なオート撮影モードを9種類搭載しています。

 はスナップ撮影に適しており、さまざまなシーンに対応します。その他に、代表的な9種類のシーンモードを用意しています。

シーンモードでは、撮影状況に合わせて露出や各種設定値をカメラが最適なものに設定します。

シーンモードに設定する

- ▶ 露出(制御)モードメニューまたは、シーンモードメニューを表示します。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ シーンを選択します。

シーンモードで撮影する

基本操作はプログラム AE と同じです。

メモ

- プログラムシフトは使用できません。
- 設定ダイヤルは使用しません。

AF/AE ロック

主題になる被写体が画面中央にない場合には、AF/AE ロックを使用して撮影します。

AF/AE ロックは、ピントと露出を被写体に合わせて固定し、その後中央以外の配置に被写体を移動させて撮影することができます。この機能は 1 点測距 AF、スポット AF 使用時に適しています。AE ロックは **P**、**S**、**A** の露出モードで機能します。




AF/AE ロックを使って撮影する

- ▶ ピントと露出を合わせたい部分に AF フレームを合わせます。
- ▶ シャッターボタンを半押しして、ピントと露出を固定します。
- ▶ シャッターボタンを半押ししたまま、本製品を動かして構図を決めます。
- ▶ シャッターボタンを全押しして撮影します。

露出補正

被写体と背景の明暗差が大きい場合は、被写体の明るさに合わせて露出を補正します。**P**、**S**、**A** の露出モードで同じ露出で何枚も撮影するときは、AE ロックを使うよりも、露出補正の方が便利です。

露出補正できる範囲は ± 3EV (1/3EV ステップ) です。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で、スライドバーを  するか、どちらかの設定ダイヤルを回して、補正値を設定します。
- ▶ **[SET]** をタッチして決定します。

設定ダイヤル (左) に **EV** を割り当てているときは、ダイヤルを回して直接露出補正を設定することができます。





- 補正値の変化に応じて画面の明るさが変わりますので、効果が確認できます。設定した補正値は、液晶モニター上に「EV+3」のように表示されます。

メモ

- マニュアル露出時は露出補正を設定することはできません。
- 設定した露出補正値は、本製品の電源を切っても記憶しています。露出補正を解除するには、補正値を「0」（中央）に戻してください。

オートブラケット

明暗差が大きい被写体を撮影するときなどに、自動的に露出を変えながら複数の画像を撮影することができます。本製品では、1度に連続して3枚撮影します。設定できる露出の範囲は±3EV (1/3EV ステップ) です。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で、スライドバーを  するか、どちらかの設定ダイヤルを回して、ステップ幅を設定します。
- ▶ **[SET]** をタッチして決定します。
- オートブラケットを設定すると  が液晶モニターに表示されます。撮影時はステップ幅に応じて画面の明るさが変わりますので、効果が確認できます。

メモ

- 露出を変える方法は露出モードにより異なります。**R** **A** **M** のときはシャッタースピードを変更し、**S** のときは絞り値を変更します。
- 撮影は適正露出 / 露出不足 / 過剰露出の順で行われます。
- シャッタースピードと絞り値の組み合わせによっては、補正値が制限される場合があります。
- ブラケット設定は、本製品の電源を切っても記憶しています。オートブラケットを解除するには、ステップ幅を **[0]** (中央) に戻してください。

フラッシュを使って撮影する

対応フラッシュユニット

下記のフラッシュを使うと、TTL 測光など、この取扱説明書に記載しているさまざまな機能を使用できます。

- ライカシステム対応フラッシュユニット「SF 40」/「SF 64」/「SF 58」。
- その他のライカシステム対応フラッシュユニット(ライカ「SF 20」を除く)。

+極性の中央接点¹(中央接点 /X 接点で発光できる)で、標準的な取り付け部を装備している市販のフラッシュユニットや、アダプターと同期コードで中央接点に接続したスタジオフラッシュユニットなどが使用できます。

サイリスタ制御式電子フラッシュユニットの使用をおすすめします。

フラッシュユニットを取り付ける

- ▶ カメラとフラッシュの電源を切ります。
- ▶ カメラのアクセサリシューを保護するアクセサリシューカバーをスライドして外します。
- ▶ フラッシュ取り付け時は、取り付け脚が確実にアクセサリシューに装着されていることを確認し、ロックナットがあればしっかり締めて、フラッシュユニットが外れないようにしてください。接点とアクセサリシューの位置がずれてしまうと、データや設定が正しく送受信されず、フラッシュ機能が正常に使えなくなることがありますのでお気を付けてください。

¹本製品に対応していないフラッシュユニットを使用した場合、ホワイトバランスが自動的に設定されません。**[Flash]** (39 ページ)を **fwB** に設定してください。

フラッシュユニットを TTL モードに設定すれば、カメラから自動制御することができます。

A に設定すると、平均的な明るさよりも明るい、または暗いものは適切な露出が得られないことがあります。

M に設定したときは、カメラが決めた絞りとシャッタースピードに最適なフラッシュ出力レベルを手動で調整し、フラッシュ発光量を調整してください。

- 設定したフラッシュモードは白色で表示されます(次ページ参照)。フラッシュユニットが充電不足で発光できないときは赤色で点滅します。

カメラは実際のフラッシュ発光の直前に数回発光して、最適なフラッシュ発光量を決定します。


その後(露光している間など)にメインのフラッシュが発光します。露出に影響するような要素(フィルター、絞りの変更)も自動的に考慮されます。


メモ

- フラッシュユニットの発光準備ができていない場合、露出が不十分になりエラーメッセージが表示されることがあります。
- 連続撮影、オートブラケット撮影ではフラッシュは使用できません。この場合、電源を入れたフラッシュユニットを装着していても、フラッシュモードが表示されず、フラッシュが発光しません。
- フラッシュユニットとライカ ビゾフレックス(電子ビューファインダー)は同時に使えません。

フラッシュモード

フラッシュモードを選ぶ

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面でフラッシュモードを選択します
 - ・ 液晶モニターのフラッシュモードの表示が変わります。

設定ダイヤル(左)に  を割り当てているときは、ダイヤルを回して直接フラッシュモードを選ぶことができます。

- ・ 選択したフラッシュモードのアイコンが液晶モニターに表示されます。

メモ

対応するフラッシュが装着されていない場合、機能がグレーで表示され設定できません。

オート ^A

被写体が暗いときに自動でフラッシュを発光させるモードです。光量が少ない場合には、フラッシュが自動発光してブレを防ぎます。

赤目軽減オート ^A

人物の目が赤く写る赤目現象を軽減させるモードです。被写体が暗いときに自動発光します。赤目現象とは、フラッシュ光が被写体の目の網膜に反射して起きる現象です。赤目を防ぐにはフラッシュ光が直接目の正面から入らないようにすることですが、これは暗い場所で目の瞳孔が開いているときに起きやすくなります。本発光の直前に予備発光を行い、目の瞳孔を閉じさせることで赤目現象を軽減します。

強制発光

常にフラッシュを発光させるモードです。日中シンクロのように、明るい場所でもフラッシュを発光させたいときに使用します。日中シンクロとは、逆光時の人物撮影などの場合に、被写体と背景の明暗差を小さくする撮影方法です。

赤目軽減強制発光 ^A

強制発光モードに赤目軽減機能が備わったモードです。赤目現象を軽減しながら強制発光したいときに選択します。

スローシンクロ

スローシャッターでフラッシュを発光させるモードです。夜景を背景に人物撮影したい時などに使用します。他のフラッシュモードでは、画像がぶれるのを防ぐために、 $1/30$ 秒より遅いシャッタースピードには設定されません。そのため、フラッシュ光が届かない背景は露出アンダーになりがちです。スローシンクロモードでは、シャッタースピードが $1/30$ 秒から 30 秒の範囲で設定されるため、背景も自然な明るさになるように撮影することができます。





メモ

- ISO オートでスローシンクロモードを使用する場合、**[ISO オート設定]** の **[最長シャッター速度]** によってスローシャッターにならない場合があります。この設定を変更するか、ISO オート以外の ISO 感度で撮影してください。
- 最長シャッタースピードは、**[最長シャッター速度]** (40 ページ) で設定できます。

赤目軽減スローシンクロ

スローシンクロモードに赤目軽減機能が備わったモードです。赤目を軽減しながらスローシンクロモードを使いたいときに選択します。

メモ

 モードおよび    モードでは、手ぶれを防ぐために三脚の使用をおすすめします。

フラッシュの到達距離

フラッシュ光の到達距離は、絞り値や ISO 感度の設定によって変化します。厳密な撮影を行う場合はテスト撮影を行って確認して下さい。

シンクロ設定

フラッシュが発光するタイミングを、シャッターが開いた直後(先幕シンクロ)とシャッターが閉じる直前(後幕シンクロ)から選択できます。

後幕シンクロは、動いている被写体を撮影する場合に被写体の軌跡や光跡を自然に表現します。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューでフラッシュ発光のタイミングを選択します。





後幕シンクロに設定すると、走る自動車のテールランプの光跡は自然に表現できます。

メモ

シャッタースピードが遅くなるほど効果を感じられるようになります。

フラッシュ発光量調整

フラッシュの発光量を調整します。夕暮れの屋外で背景の雰囲気を持続したまま人物の顔を明るく写す場合などに使用します。

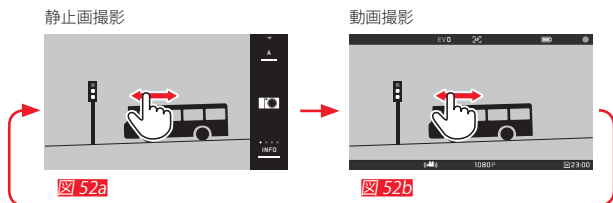
- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で、スライダーを  するか、どちらかの設定ダイヤルを回して、ステップ幅を設定します。
- ▶ **[SET]** をタッチして決定します。
 -  が液晶モニターに表示されます。

メモ

- 発光量調整を行うと、フラッシュ光の到達距離が変わりま
- す。
- 設定した発光量は、本製品の電源を切っても記憶していま
- す。発光量調整を解除するには、調整値を「0」(中央)に
- 戻してください。
- ライカ SF 64 など、装着したフラッシュで発光量の調整
- をおこなうと、本製品のメニューで設定した発光量は無
- 効になります。

動画を撮影する

本製品は動画を撮影することができます。静止画と動画の再生をタッチで切り替えられます。図 52a/b





メモ

- 動画撮影では撮像素子の中央部だけを使用するため、静止画撮影時よりも画角が狭くなります。
- 連続動画撮影は最長 29 分まで可能です。ファイルサイズは 4GB までです。4GB を超えると別のファイルとして保存されます。

動画撮影で設定できる項目は次の通りです。

動画画質 (記録画素数)

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューで動画画質を選択します。
[4K]、[1080p] (フル HD)、[720p] (HD)、[SLOMO] (スロモーション) から選択できます。

メモ

4K 動画の撮影には対応したスピードクラスのカードが必要になります。UHS スピードクラス「UHS Speed Class 3」以上または、ビデオスピードクラス「V30」以上のカードをお使いください。対応していないカードを使った場合、内部バッファがいっぱいになると撮影が途中で止まる場合があります。

ISO 感度

「ISO 感度」が選択できます。

ピント合わせ

44-50 ページに記載している項目。

測光モード

「測光モード」(52 ページ) で設定できる項目。

露出

動画撮影時の露出は、次のように設定されます。

- シャッタースピードは [動画画質] の設定によって設定されます。
- 絞り値は自動設定されます。
- 絞りを開放しても適正露出が得られない場合は、ISO 感度が自動的に上がります。

メモ

動画撮影中は、被写体の明るさの変化に応じてカメラが自動で適正露出を得ようとしています。

フィルムモードとシーンモード

40 ページに記載されているフィルムモードの設定が適用できます。シーンモードについては、ホワイトバランス、コントラスト、シャープネス、彩度のみが適用されます。

動画手ぶれ補正

- ▶ メインメニューの  MOTION IMAGE をタッチします。
- ▶  タイルメニューで **[ON]** または **[OFF]** を選択します。

メモ

動画手ぶれ補正を **[ON]** にすると、**[OFF]** にして撮影するときよりも画角が狭くなります。

撮影を開始する / 終了する

初期設定では、ファンクションボタンは動画撮影ボタンに設定されています。

ファンクションボタンに他の機能が割り当てられている場合は、次の2つの手順を順に操作して、ファンクションボタンを動画撮影ボタンに設定してください。

- ▶ メインメニューの  GENERAL をタッチします。
- ▶  をタッチして、 を選択します。

現在のファンクションボタンの設定を変えたくない場合は、タッチで動画撮影画面に切り替えてからシャッターボタンを使ってください。

開始するには

- ▶ ファンクションボタン / シャッターボタンを押します。
 - 動画撮影インジケーター (赤い円) が点滅し、残りの撮影可能時間が表示されます。

終了するには

- ▶ もう一度ファンクションボタン / シャッターボタンを押します。

録音に関する設定 (風切音低減)

音声は内蔵マイクを使ってステレオ録音されます。

風音による雑音を低減することができます。

- ▶ メインメニューの  MOTION IMAGE をタッチします。
- ▶  WIND ELIMINATION ON **[風切音低減]** で **[ON]** を選択します。

メモ

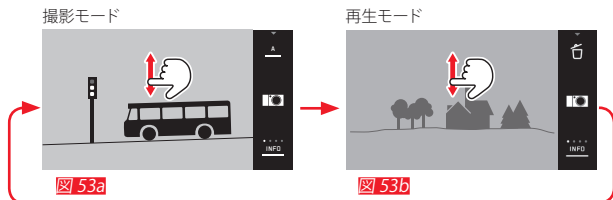
オートフォーカスやズーム操作の動作音が録音されることがあります。動画撮影中にこれらの雑音が入ってはいけなない場合は、ズーム操作を行わず、手動でピントを合わせてください。

再生する（再生モード）

再生モード

2通りの方法で撮影モードと再生モードを切り替えることができます。

タッチパネル操作で切り替える 



ファンクションボタンを使う

ファンクションボタンは動画撮影ボタンに設定されています。ファンクションボタンで撮影モードと再生モードを切り替えるには、設定しなおしてください。

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  をタッチして、 を選択します。

メモ


- 再生モードから撮影モードへの切り換えは、シャッターボタンの半押しでも切り換えられます。
- 撮影モードからメニュー画面へ切り換えて、そのあと再生モードに切り換えることはできません。メニュー画面から一旦撮影モードに戻って、それから再生モードへ切り換えてください。

- SDカード、内蔵メモリーのどちらの画像を再生するか選択することができます。
- SDカード、内蔵メモリーのどちらにも画像が記録されていない場合は、「表示できる画像がありません」というメッセージが表示されます。
- 連続撮影後またはオートブラケット撮影後は、最後に撮影した画像が表示されます。また画像の記録中は、SDカードに記録された最後の画像が表示されます。
- 他のカメラで撮影した画像の再生は保証されません。
- カメラが記録された画像を正しく認識できないときには、画像が荒く表示される場合や、真っ黒な画面のままファイル名だけが表示されることがあります。

オートレビューを設定する

オートレビューでは、撮影直後の画像表示時間や、ヒストグラム表示の有無を設定できます。


▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューをタッチします。

▶ サブメニュー画面で **[レビュー時間]** を選択し、画像が表示される時間を設定します。

▶ サブメニュー画面で **[ヒストグラム]** を選択し、ヒストグラムの表示 / 非表示を設定します。


メモ

[レビュー時間] を **[ズーム]** に設定すると、一定時間画像を表示した後、ピントを合わせた場所を拡大表示します。**[オートレビュー]** モードでは、**[自動回転表示]** が **[ON]** に設定されていても縦向きに表示されません。 によって画像を回転させることができます。

自動回転表示

縦位置で撮影した画像を、自動で縦向きに表示します。

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューをタッチします。

▶ サブメニュー画面で **[ON]** を選びます。

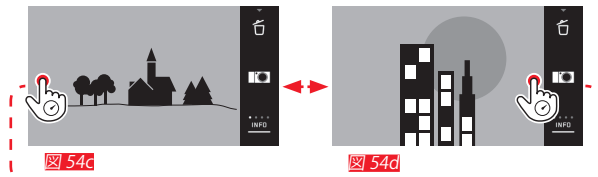
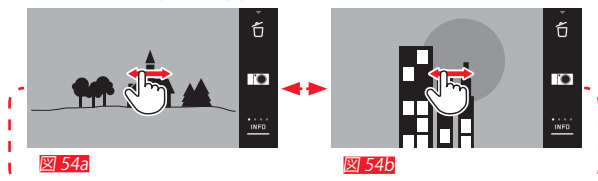
[ON] を選ぶと、縦向きに表示されます。

メモ

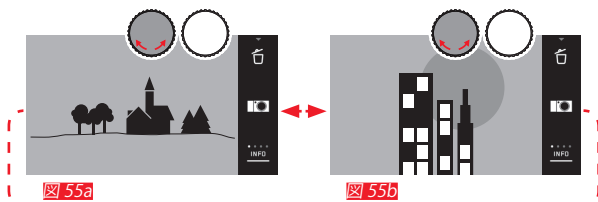
- ・ 縦向き表示は横向き表示よりも画像が小さく表示されます。
- ・ オートレビューモード時には機能しません。

表示画像を切り換える

タッチパネル操作の場合 






ダイヤル操作 (左) の場合 



右にスワイプするかダイヤルを時計方向に回すと1コマずつ前に戻ります。左にスワイプするかダイヤルを反時計方向に回すと1コマずつ次に進みます。画像の最初と最後は隣り合っており、循環して表示されます。

画像を拡大 / 縮小表示する

画像を拡大 / 縮小するには、画像を  /  するか (図 56a/b)、設定ダイヤル(右)を回します (図 57a/b)。画像を  すると、2段階に表示倍率が変わります (図 58a-c)。

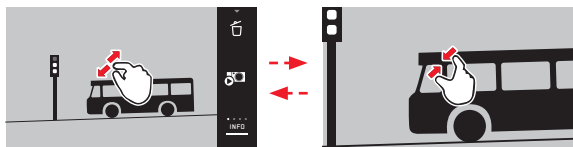


図 56a

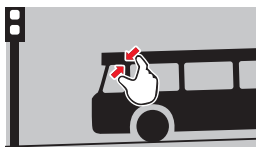


図 56b

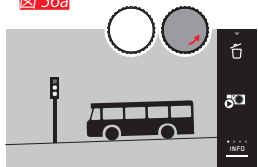


図 57a

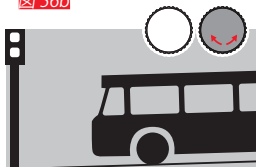


図 57b

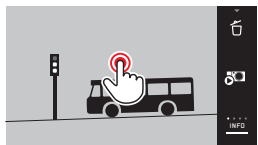


図 58a



図 58b



図 58c

メモ

ダブルタップした部分を中心に拡大表示されます。

画像を一覧表示する

画像を縮小して一覧表示します。1画面に9コマ配置し、上下にスクロールして閲覧できます (図 59a/b / 図 60a/b)。

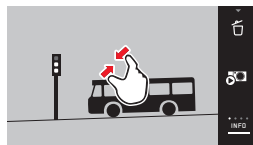


図 59a



図 59b

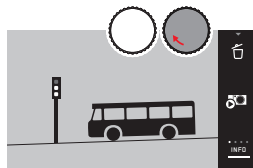


図 60a



図 60b

メモ

- 動画は拡大できません。
- 拡大表示および一覧表示では、撮影情報、ヒストグラム、クリッピングは表示されません。
- 拡大倍率が高くなるほど画像が粗く表示されます。
- 他機種のカメラで撮影された画像は拡大できない場合があります。

一覧表示で画像を選択する 図 61a/b

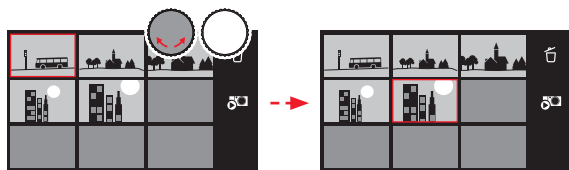


図 61a

図 61b

選択した画像を表示する 図 62a/b / 図 63a/b

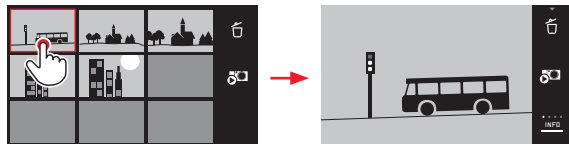


図 62a

図 62b

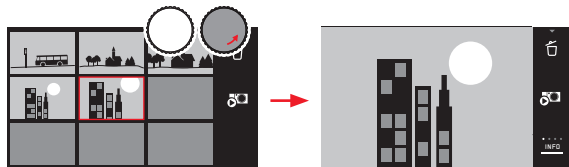


図 63a

図 63b

拡大表示箇所を移動する 図 64A/B

ドラッグして表示箇所を移動します。



図 64a

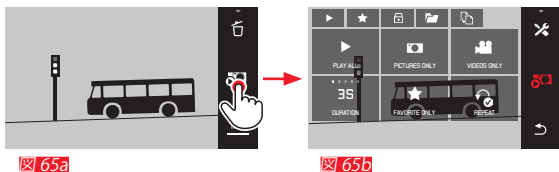
図 64b

- 画面左下にナビゲーションが表示されますので、おおよその表示位置が確認できます。

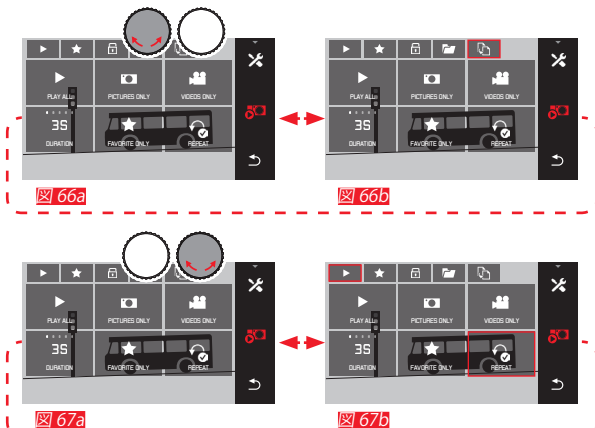
再生メニュー

再生メニューを表示します。

再生メニューを表示する



再生メニューでは、タッチパネル操作だけでなく設定ダイヤルでも操作できます (/)。



スライドショー

撮影した画像を連続再生します。再生する画像は、全ての画像と動画、お気に入りに登録した画像と動画(次のページ)のみ、画像のみ、動画のみの4種類から選べます。画像の再生間隔と繰り返し再生も設定できます。再生メニューを表示すると、最初にスライドショー再生のサブメニューが表示されます。

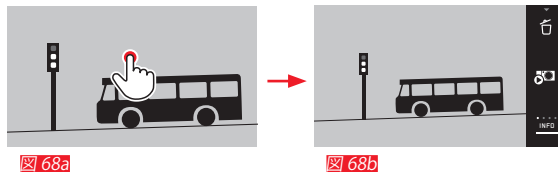
▶ サブメニューで設定を行います。

- 再生間隔と繰り返し再生の設定: と
- 再生する画像: 、、、

メモ

[再生時間] および **[繰り返し再生]** の設定は、本製品の電源を切っても記憶されます。

スライドショーを終了する



画像をお気に入りに設定する / お気に入りを解除する

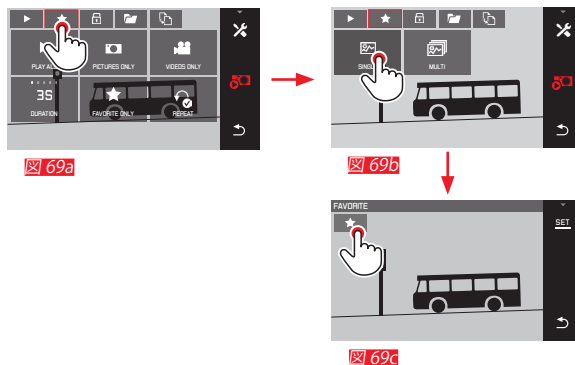
画像にマークを付けてお気に入りに設定することができます。
大切な画像を素早く探し出すことができます。

画像をプロテクトする / プロテクトを解除する

画像を誤って削除しないように、画像にプロテクトをかけることができます。

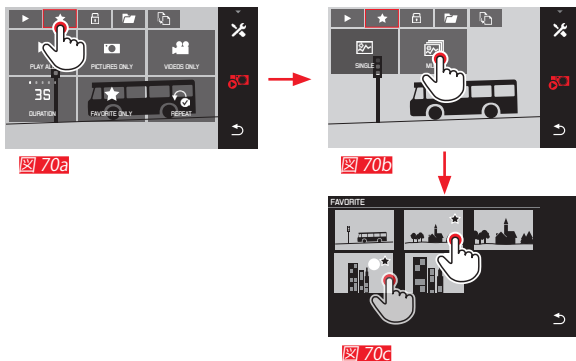
お気に入りの設定 / 解除は **★** を、プロテクトの設定 / 解除は **🔒** をタッチします。設定方法はどちらも同じですので、ここではお気に入りの設定を例に説明します。

1 コマずつお気に入りに設定する **図 69a-c**



表示中の画像をお気に入りに設定します。**図 69c**で、**★** または **[SET]** をタッチします。

複数の画像をお気に入りに設定する 図 70a-c



お気に入り/プロテクトを解除する

図 69c または 図 70c の画面で、もう一度 ★ または 錠 をタッチします。

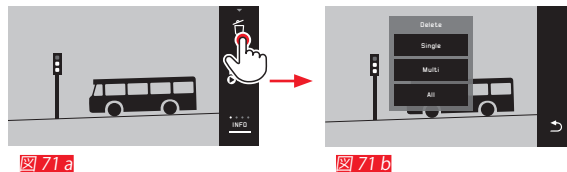
メモ

- プロテクトされた画像は削除されません。プロテクトを解除してから削除してください。
- SD カードをフォーマットすると、プロテクトされた画像も削除されます。

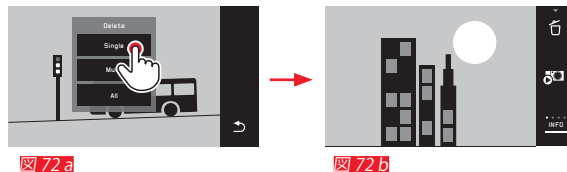
画像を削除する

SD カードや内蔵メモリーに記録された画像を削除します。削除は、1 コマずつまたは複数選んで削除することや、全部まとめて削除することができます。

削除メニューを表示する 図 71a/b



1 コマずつ削除する 図 72a/b



複数の画像を削除する 図 73a-c

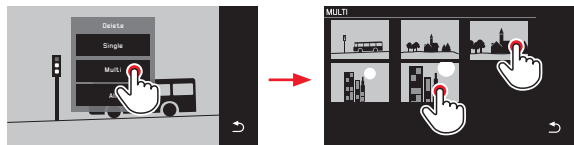


図 73a

図 73b

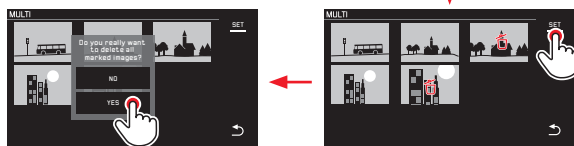


図 73c

図 73d

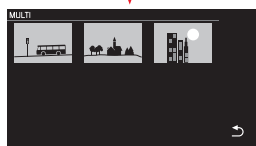


図 73e

全ての画像を削除する 図 74a/b

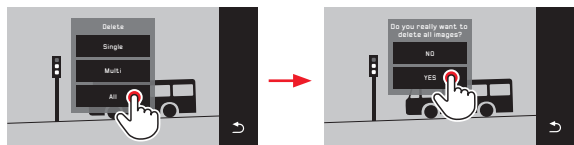


図 74a

図 74b

メモ

- [1コマ] 選択時のみ
表示されている画像が消去され、次の番号の画像が表示されます。削除しようとした画像がプロテクトされている場合は、画像は削除されず、「この画像はプロテクトされています」というメッセージが数秒間表示されます。
- [画像を選択] 選択時のみ
プロテクトされている画像は選択できず、「この画像はプロテクトされています」というメッセージが数秒間表示されます。
- [全コマ] 選択時のみ
画像を削除すると、「表示できる画像がありません」というメッセージが表示されます。沢山の画像を削除するときは、削除に時間がかかることがあります。
- 削除しようとする画像の中にプロテクトされた画像があるときは、「プロテクトされた画像は削除されませんでした」というメッセージが数秒間表示されます。プロテクトされた画像を削除するには、プロテクトを解除してください。
- お気に入りの設定、プロテクト、削除ができるのは、再生中の記録メディア (SD カードまたは内蔵メモリーのいずれか) に記録されている画像のみになります。

重要

一度削除した画像は元に戻せません。十分に確認してから削除してください。

再生する記録メディアを選択する 

メモ

SD カードが入っていないときは、記録メディアの選択はできません。

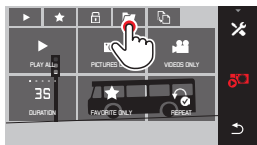


図 75a

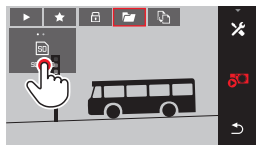


図 75b

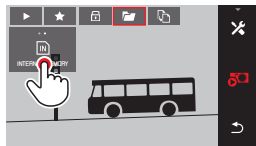






図 75c

、、、は、選択した記録メディアの画像にのみ行えます。

画像をコピーする

内蔵メモリーから SD カードへ、または SD カードから内蔵メモリーへ画像をコピーすることができます。ただし、コピー先の空き容量が足りない場合はコピーできません。

全ての画像をコピーする / お気に入りに設定した画像のみコピーする 

全ての画像をコピーするには **[全コマ]** を、お気に入りに設定した画像のみコピーするには **[お気に入り]** を選択します。

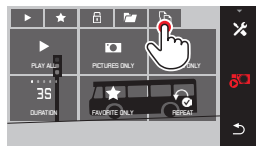


図 76a

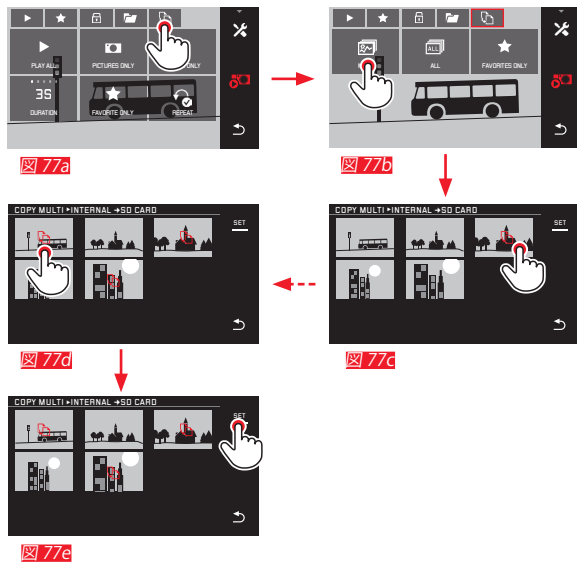


図 76b

約 3 秒後にコピーが始まります。

- コピーには時間がかかりますので、コピー中であることを示す画面が表示されます。コピーが完了すると、「画像をコピーしました」とメッセージが表示されます。

複数の画像をコピーする 図 77a-e



約 3 秒後にコピーが始まります。

- コピーには時間がかかりますので、コピー中であることを示す画面が表示されます。コピーが完了すると、「画像をコピーしました」とメッセージが表示されます。

図 77c と図 77d での画像の選択は、タッチ操作でもダイヤル操作でも選ぶことができます。

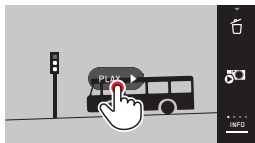
- [SET] が 画 に変わります。

画像を選んでから約 2 秒経過すると、図 77e の画面に変わります。

動画を再生する

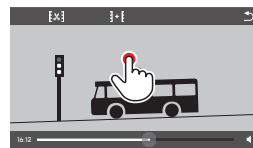
動画には **PLAY** > が表示されます。

再生を開始する  78

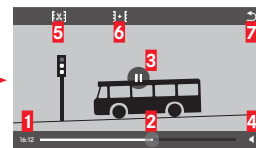


 78








操作アイコンを表示する  79a/b



 79 a



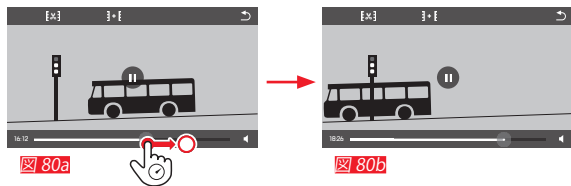
 79 b

-  1 経過時間
-  2 シークバー
-  3 再生 / 一時停止ボタン
-  4 ボリューム
-  5 カット編集ボタン
-  6 動画結合ボタン
-  7 再生終了ボタン

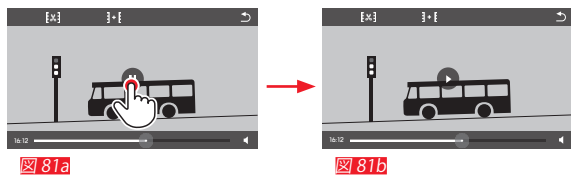
メモ

操作アイコンは操作後 3 秒経つと消えます。

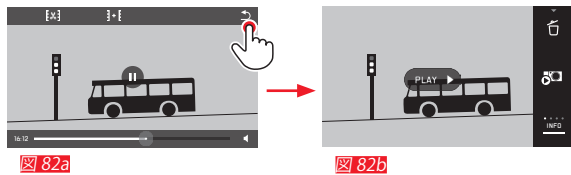
再生場所を移動する 図 80a/b



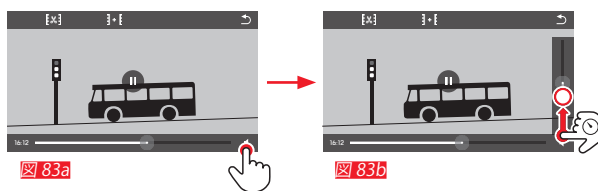
一時停止する 図 81a/b



再生を終了する 図 82a/b



音量を調節する 図 83a/b

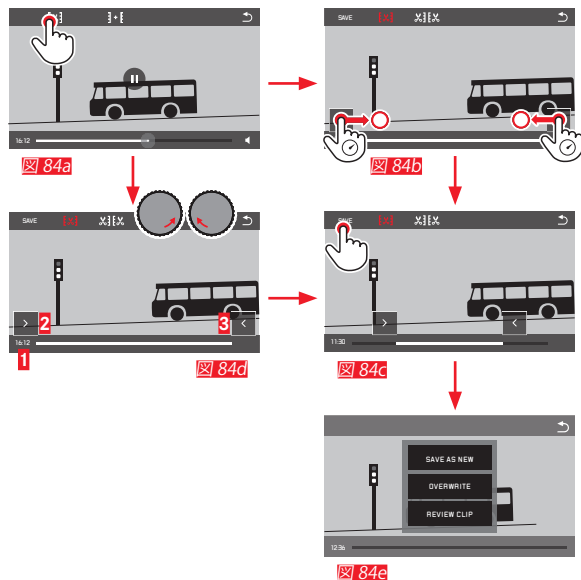


メモ

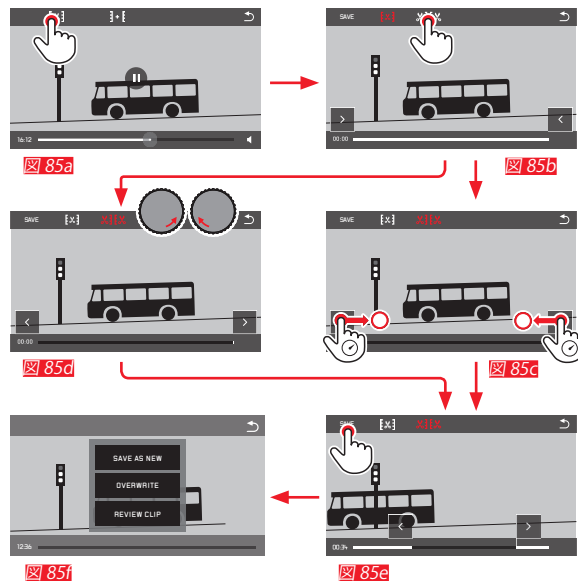
ボリュームコントロールを一番下 (音量を 0) にすると音が消え、音量アイコンの表示が  に変わります。

動画をカット編集する

2通りの方法で動画をカット編集することができます。

動画をトリミングする (最初や最後をカットする) 

▶ 次ページ右段へ続く

動画の途中をカットする (最初と最後を結合する) 

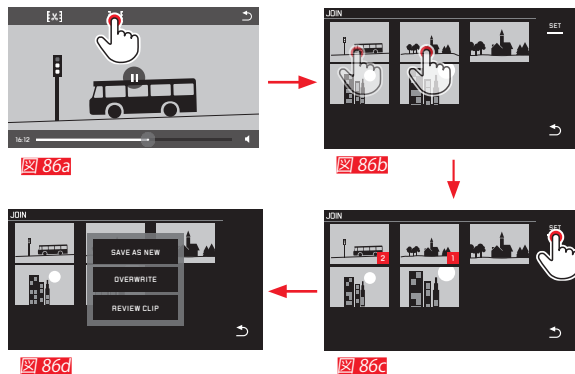
- カット編集中は、シークバー(2)上にカットするポイントを示すマーカーが表示されます。

▶ 次ページ左段へ続く

メモ

動画は1秒単位でカットできます。そのため、3秒未満の動画はカット編集ができません。

2つの動画を結合する 図 86a-d



▶ 右段へ続く

メモ

動画を結合するときは、動画を2つ選択してください。動画の右下には選択した順序に 1、2 の数字が表示され、その順番で結合されます。

カット編集や結合する動画を選択して [SET] ボタンをタッチすると、保存方法を選択するメニュー (図 84e、85f、86d) が表示されます。

▶ [別名保存]

元の動画には手を加えず、編集された動画を新たに作成して保存します。

▶ [上書き保存]

編集された動画が保存され、元の動画は削除されます。

▶ [レビュークリップ]

編集した動画を保存せずに再生します。元の動画も削除されません。



- 動画の保存には時間がかかりますので、動画保存中であることを示す画面が表示されます。保存が完了すると、保存した動画の先頭フレームが表示されます

その他



好みの設定を保存する（ユーザープロフィール）

現在のカメラの設定を記憶させることができます。保存できる設定は3通りですので、撮影状況に合わせて切り替えることができます。また、カメラを初期設定（日付/時刻と表示言語以外）に戻すこともできます（**【初期設定】**）。


プロフィールの保存

- ▶ 記憶させたい状態にカメラを設定します。
- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **【プロフィール保存】** を選択します。
- ▶ **【プロフィール保存】** のサブメニュー画面で、保存先のプロファイル番号を選択します。



プロフィールの呼び出し

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **【プロフィール読み込み】** を選択します。
- ▶ **【プロフィール読み込み】** のサブメニュー画面で呼び出したいプロフィール番号または **【初期設定】** を選択します。

メモ



- **【初期設定】** を選ぶと、プロフィールにメニュー設定を保存していても、初期設定にいつでもすることができます。
- 「設定をリセットする」の  機能とは違い、**【初期設定】** を実行しても日付/時刻と表示言語はリセットされません。

プロフィールの名前を変更する

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **プロフィール名変更** を選択します
- ▶ **プロフィール名変更** のサブメニュー画面で、保存先のプロフィール番号を選択します
- ▶ サブメニューのキーパッドをタッチ操作して、新しい名前を入力してください。

プロフィールをカードから取り込む／書き出す

プロフィールをカメラからカードへコピーする、またはカードからカメラへコピーすることができます。どちらも同じ操作で行えます。



- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で **出力** または **入力** を選択します。
 - 確認メッセージが表示されます。
- ▶ **はい** を選択します。

メモ

カードへの書き出しは、空のプロフィールを含むすべてのプロフィールが書き出されます。また、カードからカメラへプロフィールを取り込む際は、カメラにあるすべてのプロフィールが上書きされますのでお気を付けください。

設定をリセットする

すべての設定をリセットして、工場出荷時の状態に戻します。
ネットワークやプロファイルを残すこともできます。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
 - 確認メッセージが表示されます。
- ▶ **はい** を選択します。
 - ネットワーク設定の確認メッセージが表示されます。
- ▶ **はい** または **いいえ** を選択します。
 - プロファイル設定の確認メッセージが表示されます。
- ▶ **はい** または **いいえ** を選択します。


メモ

設定リセットを行うと、**日付 / 時刻** と **LANGUAGE** を含めた全ての設定がリセットされます。工場出荷時の状態に戻りますので、日付 / 時刻と言語の設定を行ってください。

画像番号をリセットする

撮影した画像には、LEICA の頭文字「L」と7桁の通し番号が自動的に付きます。数字7桁のうち、前の3桁がフォルダ番号、下4桁に画像番号をそれぞれ連番で付けていきます(例:「L1001234」)。ここでは、画像番号の下4桁をリセットすることができます。

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューをタッチします。

- ・ 確認メッセージが表示されます。

▶ **[はい]** を選択します。

画像番号の下4桁が9999に達する、あるいは画像番号をリセットすると、新しい保存フォルダが自動生成され、そこに下4桁が0001の名前で次の画像ファイルが保存されます。(例:前の画像のファイル名が「L1009999」のとき、次のファイル名は「L1010001」)自動生成されるフォルダの番号は、100LEICA から999LEICA まで連番で作られます。

ファイル名が「L9999999」に達するとメッセージが表示され、撮影できなくなります。フォーマットあるいは新しいSDカードに取り換えて画像番号をリセットしてください。

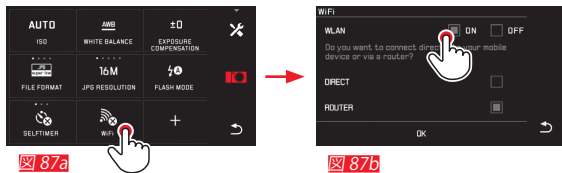
メモ

- ・ SDカード挿入時には、SDカードの画像番号がリセットされます。ない場合には内蔵メモリーの画像番号がリセットされます。
- ・ カメラが記憶している画像番号よりも大きい番号がSDカード内にある場合は、その続きの番号が次の画像に付けられます。
- ・ フォルダ番号を100に戻すには、フォーマットあるいは新しいSDカードに取り換えて画像番号をリセットしてください。

WIFI 機能を使う

Wi-Fi 機能をオンにする 87a/b

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニューで **[ON]** を選択します。

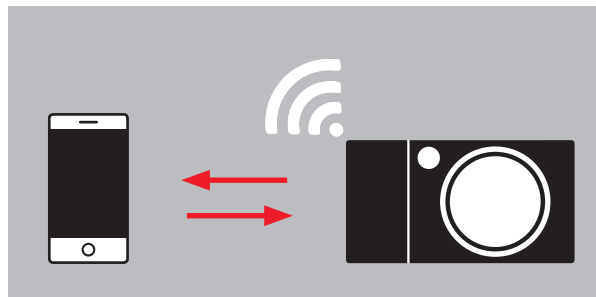


- アクセスポイントを介せずに接続する際は、**[直接接続]** を、
- アクセスポイントを介して接続する際は、**[ルーター接続]** を選択してください。
- **[ウェブギャラリー]** または
- **[アプリ接続]** から画像を閲覧する方法を選択してください。

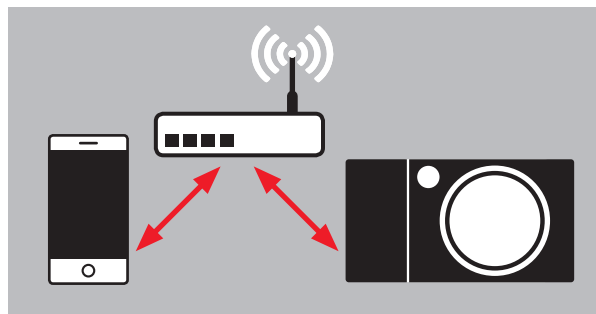
メモ

「Leica TL App」は Apple ™ App Store ™ /Google Play Store ™ で入手することができます。

直接接続

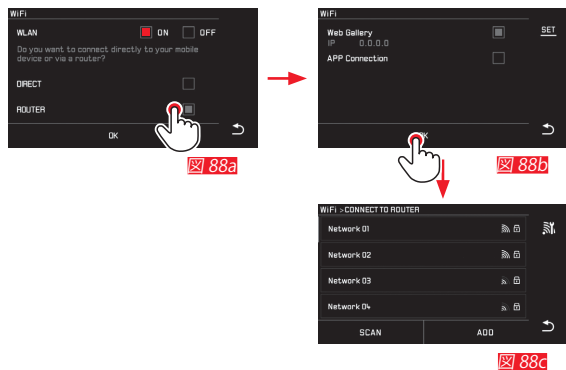



ルーター接続

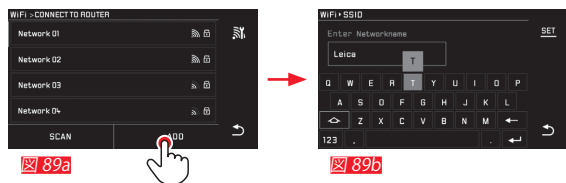


アクセスポイントを検索する 88a/c

リストから接続したいアクセスポイントを選択します。接続したいアクセスポイントが表示されない場合は、**[スキャン]**をタッチしてアクセスポイントを再検索できます。



非公開アクセスポイントに接続するには、**[ネットワーク追加]**をタッチしてアクセスポイントの名称を直接入力してください  89a/b)。

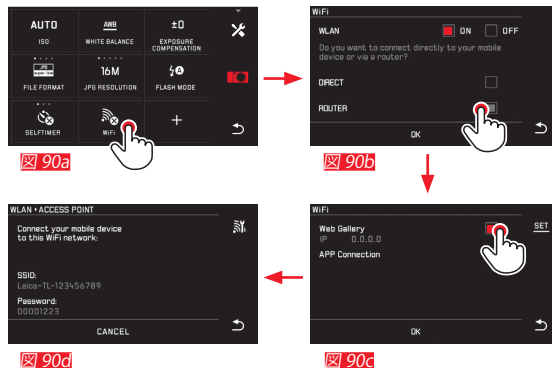


接続に必要な情報を入力する

[パスワード] アクセスポイントへの接続に必要なパスワードを入力します。設定されていない場合は空欄のままにしてください。**[IP設定]** 通常は AUTO (オート) で自動取得しますが、必要に応じて**マニュアル** で設定してください。

Web ブラウザから本製品と接続する (ウェブギャラリー) 90a-d

Web ブラウザのアドレスバーに本製品の IP アドレスを入力して接続すると、本製品に保存された画像の表示や保存ができます。



スマートフォン / タブレットと接続して使う

本製品とスマートフォン / タブレット端末用とを接続するには、専用アプリケーション「Leica TL App」を使用します。

- 「Leica TL App」は Apple ™ App Store ™ / Google Play Store ™ で入手します。
 - ▶ **[直接接続]** を選択します。
 - ▶ 次の画面で **[アプリ接続]** を選択します。
 - ▶ ネットワークデバイス名 (SSID) とパスワードが画面に表示されます。
 - ▶ 接続させたいスマートフォンまたはタブレット端末上で、ネットワークリストよりライカ TL2 を選択します。
- アクセスポイントを介して接続するには、
 - ▶ **[ルーター接続]** を選択します。
 - ▶ 次の画面で **[アプリ接続]** を選択します。
 - ▶ 表示されたワイヤレスネットワークのリストより、接続したいネットワークを選択します。
 - ▶ 接続に必要なユーザー名とパスワードを入力します。


次の接続からは自動的に接続します。別のカメラと接続するには、**[切断]** を選択して接続を終了し、再度同じ手順で別のカメラと接続し直してください。

ネットワークを管理する

[ネットワークの管理] では、カメラに登録されたアクセスポイントの設定が削除できます。

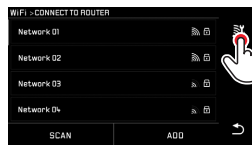
接続中のネットワークにはチェックマーク (✓) が表示されます。

▶ メインメニューの  をタッチします。

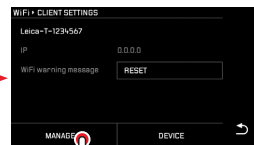
▶  タイルメニューをタッチします。

▶ サブメニュー画面で  をタッチします。

▶ **[ネットワークの管理]** をタッチします。



 **91a**





 **91b**



 **91c**

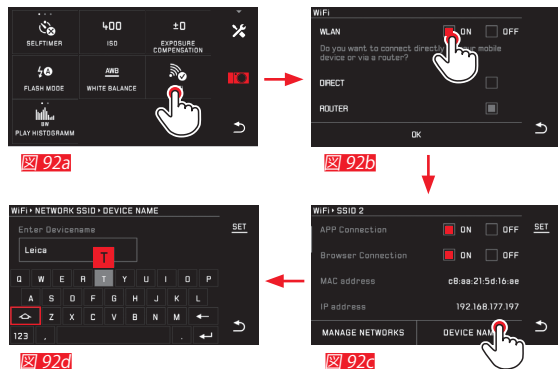
デバイス名を変更する 図 92a-d

ネットワーク上で表示される本製品の名称(ネットワークデバイス名)を変更することができます(初期設定は「Leica-TL2-カメラの製造番号」)。ネットワーク名を変更するにはカメラのWiFiメニューでデバイスを選択してください。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面で ✖ をタッチします。
- ▶ **ネットワークデバイス** をタッチします。
- ▶ 名称を入力します。

メモ

ネットワーク名に使用できるのは A～Z、a～z、0～9、! です。スペースは使用できません。



メモ

- Wi-Fi で送信される画像の画素数は 200 万画素にリサイズされます。本来の記録画素数で画像を取り込むには USB ケーブルやカードリーダーを使用してください。
- カメラやデータに不正アクセスされるおそれがありますので、信頼のおけるネットワーク内で使用してください。
- Wi-Fi をオンにすると電力を多く消費します。Wi-Fi を使用しないときはオフにすることをおすすめします。
- パソコンと USB 接続している間は、Wi-Fi を使用することはできません。
- **ウェブギャラリー** は第三者に傍受されるおそれがありますので、信頼のおけるネットワーク内で使用してください。

画像をパソコンに取り込む

USB ケーブルで接続する / カメラを外付けドライブとして使用する

本製品は次の OS に対応しています。

Microsoft®:Vista® / 7® / 8®

Apple®Macintosh®:Mac® OS X (v 10.6 以降)

本製品には、パソコンとの接続インターフェースにマイクロ USB 端子 (USB3.0 SuperSpeed) を装備しています。

Windows OS をお使いの場合

「リムーバブル記憶域があるデバイス」として認識されます。「Windows エクスプローラ」を使用して画像を取り込んでください。

Mac OS X をお使いの場合

「外部ディスク」としてデスクトップにマウントされます。「Finder」を使用して画像を取り込んでください。

重要

- 付属の USB ケーブル以外の動作を保証していません。
- 画像取り込み中は、絶対に USB ケーブルを抜かないでください。本製品、パソコン、SD カードの故障或不具合の原因となります。
- 画像取り込み中は、本製品の電源を切ったり、バッテリーを取り出したりしないでください。本製品、パソコン、SD カードの故障或不具合の原因となります。
- 画像取り込み中は、バッテリー残量がなくなり本製品の電源が切れることのないよう注意してください。バッテリー残量が少なくなったときには、液晶モニター上のバッテリー残量表示が赤で点滅します。画像の取り込みを中止してから電源を切り、バッテリーを充電してください。

カードリーダーを使用する



パソコンに搭載されたカードリーダー、あるいは USB 接続等のカードリーダーを使用して画像を取り込んでください。

メモ

本製品は撮影時のカメラの向き(縦位置 / 横位置)を検知するセンサーを搭載しており、その情報を画像に付加します。対応する画像ソフトウェアでは、自動的に向きを直して表示することができます。

フォーマット（初期化）する

内蔵メモリー、SD カードをフォーマットします。
新しいSD カードや他の機器で使用したSD カードを使用する場合は、必ず本製品でフォーマットしてから使用してください。使用に適さないフォーマットのSD カードを入れると、フォーマットを促すメッセージが表示されます。画像の記録と削除を繰り返して起きる断片化の影響で、カメラの動作が不安定になることがあります。これ防ぐために、定期的にフォーマットすることをおすすめします。

- ▶ メインメニューの  をタッチします。
- ▶  タイルメニューをタッチします。
- ▶ サブメニュー画面でフォーマットする対象を選択します。
 - 確認メッセージが表示されます。
- ▶ **[[はい]]** を選択します。

メモ

- フォーマットすると画像データは削除されます。元に戻すことはできませんのでご注意ください。
- 大切な画像データは、撮影後なるべく早めにパソコンのハードディスクなどに取り込んでください。
- フォーマット中は本製品の電源を切らないでください。
- パソコンなど他の機器でフォーマットしたSD カードを使用する場合は、必ず本製品でフォーマットしてから使用してください。
- フォーマットできない場合は、お買い上げの販売店またはライカカスタマーケアまでご相談ください。
- フォーマットすると、プロテクトされた画像も削除されます。

DNG (RAW) について

DNG (RAW) 形式で記録した画像を閲覧・現像するには、対応するソフトウェアが必要です。

カメラ情報ファームウェアのバージョンを確認する

ファームウェアはデジタルカメラを制御するためのベースになるソフトウェアです。

ライカでは、製品に新しい機能を追加したり不具合を修正するため、継続的にファームウェアの改善に取り組み、お買い上げの後にも最新の状態に保てるよう、インターネットを通じて提供しています。


本製品をユーザー登録された方には、最新ファームウェアのリリース情報を随時お届けいたします。最新のファームウェアをダウンロードして、本製品をアップデートしてください。

ユーザー登録とファームウェアのアップデート、およびこの取扱説明書の改訂や追加などについて詳しくは、下記のライカカスタマーサイトにてご確認ください。

<https://owners.leica-camera.com>

現在インストールされているファームウェアのバージョンを確認したい場合は：

▶ メインメニューの  をタッチします。

▶  タイルメニューをタッチします。

- サブメニュー画面の「ファームウェア」の項目にバージョン番号が表示されます。

法律に基づく情報 (REGULATORY INFORMATION) を確認する

▶ サブメニュー画面で **REGULATORY INFORMATION** を選択します。

- 各種のマークや認証番号が表示されます。

ご注意とお手入れ

使用時のご注意

強い磁気、静電気、電磁波を発生する機器（電磁調理器、電子レンジ、テレビ、パソコンのモニター、ゲーム機、携帯電話、無線機など）の近くで使用しないでください。

- テレビの上や近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- 携帯電話の近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- スピーカーや大型の電動機などの強い磁気により、保存した画像データが破損することがあります。
- 電磁波の影響で正常に動作しなくなった場合は、バッテリーを入れ直してから電源を入れ直してください。無線送信機や高圧線の近くで使用しないでください。磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- 殺虫剤などの強い化学薬品をかけないようにしてください。お手入れの際は、軽油、シンナー、アルコールは使用しないでください。薬品や溶剤によっては、本体表面が変質したり、表面の仕上げがはげたりすることがあります。
- ゴム製品やビニール製品は、強い化学物質を発生することがありますので、長期間接触したままにしないでください。
- 浜辺などで使用するときには、内部に砂やほこりが入り込まないようにご注意ください。砂やほこりが入り込むと、本製品やSDカードの故障の原因になります。SDカードの出し入れの際は特にご注意ください。
- 雨の中や雪の中や浜辺などで使用するときには、内部に水滴が入り込まないようにご注意ください。水滴が入り込むと、本製品やSDカードが正常に動作しなくなるばかりか、修理が不可能になることがあります。

- 海水がかかった場合は、柔らかい布を水道水で湿らせ、よく絞ってからカメラ本体を拭き取ってください。その後、乾いた布でよく拭いてください。

重要

本書またはライカで指定したアクセサリ以外は使用しないでください。

液晶モニター

- 寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと、液晶モニターに結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、乾いた柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。
- 寒い場所で電源を入れた場合、表示が通常よりやや暗いことがあります。本製品が温まるにつれて、明るさは元に戻ります。

液晶モニター（LCD パネル）多くの画素で構成されており、黒い点や、常時点灯したままになる画素が何点か存在することがあります（これを「画素欠点」といいます）。現在の製造技術では完全にこの画素欠点を無くすることは難しく、総画素数の0.005%以下の画素欠点は製品の許容範囲内としています。これが記録画像に影響することはなく、故障や初期不良ではありません。

撮像素子

- 宇宙線の影響により(航空機内に持ち込んだ場合など)、画素に異常が生じることがあります。

結露

本製品の内部や外部で結露が生じた場合は、電源を切って常温の場所に約1時間置いてください。常温になじんでくると水滴は自然に消えます。

お手入れ

- 汚れはカビや細菌などの繁殖の原因となりますので、本製品は清潔に保ってください。

カメラ

- 本製品をお手入れする際は、乾いた柔らかい布をお使いください。ひどい汚れは、よく薄めたクリーナーなどを直接付けてから、乾いた布で拭き取ってください。
- 指紋などの汚れは、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。布では拭き取りにくい隅の汚れには、小さなブラシをお使いください。
- 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しない場合は、動作が鈍くなるのを防ぐために、約3ヶ月ごとに数回シャッターを切って動かしてください。また、設定ダイヤルも定期的に動かすことをおすすめします。

レンズ

- レンズ表面についたホコリはまずブローアーで吹き飛ばし、それでも落ちない場合は柔らかいブラシを使って落としてください。汚れがひどい場合や指紋のあとを取り除くには、クリーナーなどを何も付けていない柔らかい清潔な布を使って、レンズの中央から外側に向かって円を描くようにして丁寧に拭き取ってください。メガネ用クリーニング・ティッシュ等の化学成分を含んだ紙や布は、レンズ表面やコーティング層を傷める原因となりますので絶対に使用しないでください。アセトンのような溶剤や揮発性の高い薬品は絶対に清掃には使用しないでください。レンズ表面の汚れをふき取る際には力を入れすぎないように注意してください。コーティングは摩擦に対して非常に高い体制を備えています。細かい砂の粒子等で傷をつける場合があります。
- 付属のレンズフードを装着すれば、不用意に指紋を付けたリ雨でぬらしたりすることを防げます。

バッテリー

- 充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。
- 本製品は、電源を切っても日付などの設定の保存に微量の無負荷電流を使用するため、数週間後には多量の電力を消費してバッテリーが過放電状態になります。本製品を長期間使用しない場合は、本製品からバッテリーを取り出してください。
 - バッテリーを取り出して保管する場合は、容量がある程度残った状態で保管してください。長期間保管するときは、過放電状態にさせないために、半年ごとに約15分間充電してください。

- ・バッテリーの端子部は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくいですが、クリップやアクセサリなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- ・バッテリーは0～35°Cの場所で充電してください。これ以外の温度では、まったく充電できないか、一度充電中になっても再度充電できない状態になります。
- ・バッテリーを落とした場合は、外装や端子部に破損がないか確認してください。破損したバッテリーを使用すると、本製品が故障するおそれがあります。
- ・バッテリーには寿命があります。
- ・破損したバッテリーは、正しくリサイクルするために、リサイクル協力店にお持ちください。
- ・バッテリーは絶対に火の中に投げ入れないでください。破裂の原因となります。

バッテリーチャージャー

- ・バッテリーチャージャーを無線受信機の近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。無線受信機から1m以上離してお使いください。
- ・充電中に音がすることがありますが、異常ではありません。
- ・バッテリーを充電していない場合でも、コンセントに差し込んだままにしておくことで微量の電力を使います。使用しないときはコンセントから抜いてください。
- ・端子部は清潔に保ってください。また、絶対にショートさせないでください。

メモリーカード

- ・データの読み込み中や書き込み中は、メモリーカードを本製品から取り出したり、本製品の電源を切ったり、本製品に振動を与えたりしないでください。
- ・メモリーカードを保管するときは、記録データを保護するために、付属の帯電防止ケースに入れてください。
- ・高温の場所、直射日光の当たる場所、磁気や静電気が発生する場所で保管しないでください。
- ・落としたり曲げたりしないでください。破損して記録データが消失する原因となります。
- ・本製品を長期間使用しない場合は、本製品からメモリーカードを取り出してください。
- ・メモリーカードの裏にある端子部に触れないでください。また、汚れやほこりが付着したり、水でぬらしたりしないようにご注意ください。
- ・データ削除を繰り返すと断片化が生じて空き容量が少なくなり、書き込み時間が長くなることで記録エラーが起きる場合がありますので、定期的にフォーマットし直すことをおすすめします。

保管

- 本製品を長期間使用しない場合は、次のことをおすすめします。
 - a. 電源を切る
 - b. メモリーカードを取り出す
 - c. バッテリーを取り出す
- 本製品の正面に強い太陽光が当たると、レンズがルーペと同じ作用をします。太陽光とレンズの作用により本製品の内部が破損しますので、レンズを保護せずに本製品を強い太陽光に向けたまま放置しないでください。レンズキャップを取り付けて、日陰に置いたりケースに収納したりして、強い太陽光が当たらないようにしてください。
- 破損やほこりから保護するために、パッド入りのケースに保管することをおすすめします。
- 適度に風通しのよい乾いた場所で保管してください。高温・多湿の場所での保管は避けてください。湿気の多い場所で使用した場合は、湿気をよく取り除いてから保管してください。
- 収納しているケースが湿った場合は、湿気や湿気によって染み出てくるなめし剤によって本製品が故障するのを防ぐために、本製品をケースから取り出してください。
- 高温・多湿の熱帯地域で使用するときは、カビが発生するのを防ぐために、できるだけ多く日光や風に当ててください。密封ケースなどに保管するときは、シリカゲルなどの乾燥剤を入れてください。
- カビや細菌が発生するのを防ぐために、レザー製のケースに長期間収納したままにしないでください。
- 本製品のシリアルナンバーは、紛失・盗難の際に重要となりますので、書き写して保管してください。

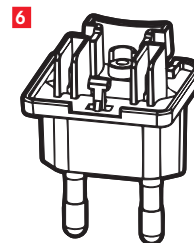
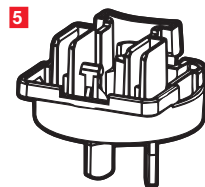
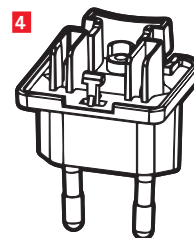
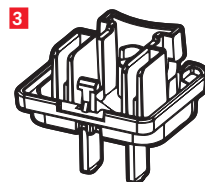
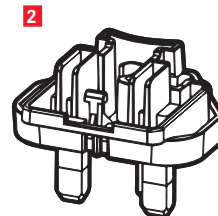
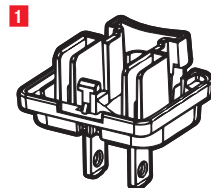
キャリングストラップの安全なご使用について

- キャリングストラップは非常に丈夫な素材でできているため、首などを締め付ける可能性があります。
- カメラや双眼鏡のキャリングストラップという本来の目的以外で使用しないでください。それ以外の目的で使用されますと、ケガの恐れやストラップの破損につながりますのでお止めください。
- 首などに巻きついて締め付ける可能性が高く危険なため、スポーツや登山などのアウトドアスポーツの際はカメラや双眼鏡のキャリングストラップとして使用しないでください。
- キャリングストラップはお子様の手の届かないところに保管してください。お子様の体を締め付ける恐れが高いため、お子様はカメラや双眼鏡のキャリングストラップとしても使用しないでください。

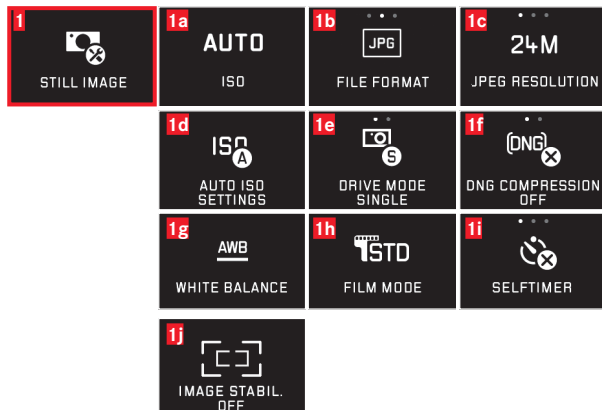
付録

着脱式電源プラグの種類

種類	使用できる国
1 アメリカ / 日本仕	アメリカ カナダ 日本 シンガポール タイ 台湾
2 EU 仕様	EU 諸国 トルコ ロシア
3 イギリス仕様	イギリス カタール UAE 香港 マレーシア 南アフリカ マルタ
4 中国仕様	中国
5 オーストラリア仕様	オーストラリア ニュージーランド
6 韓国仕様	韓国



メインメニュー



ファンクショングループ

1	静止画設定
2	露出設定
3	フォーカス設定
4	動画設定
5	ワイヤレス接続設定
6	モニター/ビューファインダー設定
7	再生設定
8	カメラに関する設定
9	フラッシュ設定

静止画設定

MY CAMERA¹ ページ

1a	ISO 感度	x 40
1b	記録形式	x 38
1c	JPG 記録画素数	x 38
1d	ISO オート設定	40
1e	ドライブモード	44
1f	DNG 圧縮	38
1g	ホワイトバランス	x 39
1h	フィルムモード	40
1i	セルフタイマー	x 42
1j	静止画手ぶれ補正 ²	42

¹ X = MY CAMERA メニューのメニュー項目 (初期設定)² ライカ SL レンズ装着時のみ可能

露出設定

MY CAMERA ページ

2a	測光モード	x	52
2b	露出補正	x	60
2c	オートブラケット		61

フォーカス設定

3a	フォーカスモード		44
3b	AF モード		46
3c	AF 補助光		45
3d	MF アシスト		50

動画設定

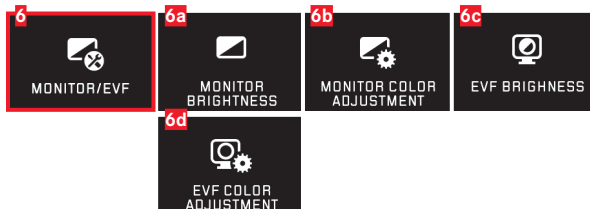
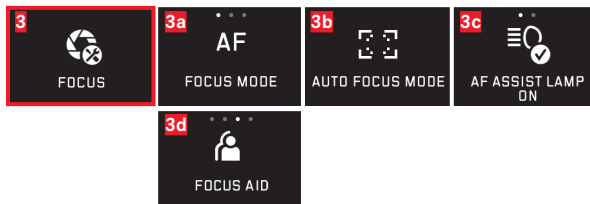
4a	動画画質		66
4b	動画手ぶれ補正		67
4c	風切音低減		67

ワイヤレス接続設定

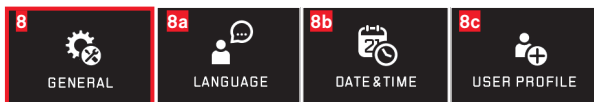
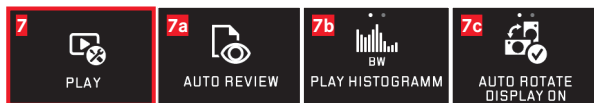
5a	Wi-Fi	x	86
5b	GPS ³		43

モニター／ビューファインダー設定

6a	LCD 輝度		36
6b	LCD 色設定		37
6c	EVF 輝度 ³		36
6d	EVF 色調整 ³		37



³ ライカ ビゾフレックス (Typ 020) (別売) 取付け時のみ設定できます。



再生設定

ページ

7a	オートレビュー	68
7b	再生istogram	57
7c	自動回転表示	69

カメラに関する設定

8a	LANGUAGE	34
8b	日付/時刻	34
8c	ユーザープロファイル	82
8d	オート液晶オフ	36
8e	オートパワーオフ	37
8f	電子音	36
8g	フォーマット	91
8h	画像番号	85
8i	設定リセット	84
8j	カメラ情報	7/93
8k	ファンクションボタンモード	21/37/67

フラッシュ設定⁴

9a	フラッシュモード	63
9b	フラッシュ発光量調整 ⁵	65
9c	シンクロ設定	65

⁴フラッシュ装着時のみ有効⁵装着したフラッシュが直接設定できない場合のみ有効

露出モード

10 P PROGRAM AE	11 A APERTURE PRIORITY	12 S SHUTTER PRIORITY
13 M MANUAL	14 SCN SCENE	

14 SCN SCENE	14a AUTO AUTO	14b SPORTS	14c PORTRAIT
14d LANDSCAPE	14e NIGHT PORTRAIT	14f SNOW/BEACH	
14g FIREWORKS	14h CANDLE LIGHT	14i SUNSET	
14j DIGISCOPING			

露出制御モード

ページ

10 プログラム AE	53
11 絞り優先 AE モード	54
12 シャッター優先 AE	55
13 マニュアル露出	56
14 シーンモード	59

シーンモード

14a オート	
14b スポーツ	
14c 人物	
14d 風景	
14e 夜景 & 人物	
14f 雪景色 / ビーチ	
14g 花火	
14h キャンドル	
14i 夕焼け	
14j デジスコوپング	

索引

1 コマ撮影 / 連続撮影	44	結合 (動画)	81
DNG	38/92	コピー (画像)	76
GPS	43	コントラスト	41
ISO 感度	40	再生メニュー	72
RAW	38/92	再生モード	68
SD カード (入れる / 取り出す)	16	彩度	41
USB 接続	14	削除 (画像)	74
WiFi	86	シーンモード	59/101
圧縮率	38	シャッターを切る→テクニカルデータ	21
液晶モニター	36	修理 (ライカ カスタマーケア)	106
お気に入り設定	73	スライドショー	72
オートパワーオフ	35	設定ダイヤル	20
音量 (電子音)	36	設定リセット	84
外部フラッシュユニット	62	セルフタイマー	42
拡大表示 (画像)	70	タッチパネル操作	22
各部の名称	3	手ぶれ補正	42/67
画像を再生する→再生モード	68	電子ビューファインダー	36
画像を再生する記録メディアを選ぶ	76	電子音	36
画像をパソコンに取り込む	90	電源を入れる / 切る→メインスイッチ	20
カット (動画)	80	動画撮影	66
記録画素数	38	バッテリー (入れる / 取り出す)	11
記録形式	38	ヒストグラム	24/57/58
キャリングストラップ	10	日付と時刻	34
クリッピング表示	24/57/58	表示言語	34
		ピント合わせ	44

ファインダー	36
ファームウェア	92
ファンクションボタン	21/37/67/68
フィルムモード	40
フォーカスモード	44
AF 補助光	45
MF アシスト	50
オートフォーカス	44
測光モード	46
タッチ AF	48
マニュアルフォーカス	50
フォーマット (SD カード)	91
付属ソフト	105
付属品	4
フラッシュを使って撮影する	62
プロテクト/プロテクト解除 (画像)	73
保管	96
ホワイトバランス	39
本製品の取り扱いについて	93
メインスイッチ	20
ユーザープロフィール	82
ライカ デジタルサポートセンター	106
連続撮影	44
録音	67

露出

AF/AE ロック	60
オートブラケット	61
シーンモード	59/101
絞り優先 AE (A)	54
シャッター優先 AE (S)	55
測光モード	52
プログラム AE (P)	53
プログラムシフト	53
マニュアル露出 (M)	56
露出補正	60

テクニカルデータ

カメラ名称 ライカ TL2

型番 5370

商品コード 18 187 (シルバー)、18 188 (ブラック)

レンズマウント ライカLバヨネットマウント(電子接点装備)

使用可能レンズ ライカ TL 用レンズ、ライカ SL 用レンズ、ライカ M/R レンズ(ライカ L 用 M レンズアダプターまたは、L 用 R レンズアダプターを使用)

撮像素子 CMOS センサー サイズ:23.6 × 15.7mm(APS-C サイズ) 総画素数:2496 万画素 有効画素数:2424 万画素 アスペクト比:3:2

記録画素数 DNG:6016 × 4014 画素(24M)

JPG:6000 × 4000 画素(24M)、4272 × 2856 画素(12M)、3024 × 2016 画素(6M)

記録形式 JPG、DNG、DNG + JPG
DNG(非圧縮またはロスレス圧縮)

動画の記録形式 MP4

動画の記録画素数 / フレームレート 3840 × 2160 p (4K)
30fps, 1920 × 1080 p (FHD) 60 fps, 1280 × 720 p (HD) fps, 1280 × 720 p (HD) 120 fps (SLOMO)

動画撮影 連続動画撮影は最長 29 分、最大ファイルサイズ 4GB まで可能です。それらを超える場合は、ファイルは分かれて保存されます。

内蔵メモリー 32 GB

記録媒体 SD/SDHC/SDXC メモリーカード UHS II 対応

ISO 感度 オート、ISO 100 ~ 50000

ホワイトバランス オート、プリセット(晴天、くもり、日かげ、白熱灯、フラッシュ)、手動設定(マニュアル 1、マニュアル 2)、色温度設定

オートフォーカス コントラスト検出方式

AF モード 1 点測距、多点測距、スポット、顔認識、タッチ AF (マニュアルフォーカス可)

露出モード プログラム AE、絞り優先 AE、シャッター優先 AE、マニュアル露出、シーンモード(オート、スポーツ、人物、風景、夜景 & 人物、雪景色 / ビーチ、花火、キャンドル、夕焼け、デジスコピーング)

測光方式 マルチ測光、中央重点測光、スポット測光

露出補正 ± 3EV の範囲内で 1/3EV ステップ

オートブラケット -3EV ~ +3EV (1/3EV ステップ)、3 コマ撮影

シャッタースピード 30 ~ 1/40000 秒(電子シャッター使用時は左記以上)、30 ~ 11/4000 秒(メカシャッター使用時)

連続撮影 約 7 コマ / 秒(電子シャッター使用時)、約 20 コマ / 秒(メカシャッター使用時)、29 枚目以降は速度が低下(低下の度合いは使用する SD カードの書込み速度に依存)

フラッシュモード 装着するシステム対応のフラッシュユニットによる

フラッシュ発光量調整 -3EV ~ +3EV (1/3EV ステップ)

フラッシュ同調速度 1/180 秒

液晶モニター 3.7 型 TFT 液晶モニター (タッチパネル)
画素数: 約 130 万ドット (854 × RGB × 480)

セルフタイマー 2 秒または 12 秒

Wi-Fi (無線 LAN) 準拠規格: IEEE 802.11b/g/n (無線 LAN 標準プロトコル)、使用周波数範囲: 1 ~ 11ch、暗号化方式: WiFi 準拠 WPA™ / WPA2™、アクセス方式: インフラストラクチャーモード

電源 充電式リチウムイオンバッテリー BP-DC 13、撮影可能枚数: 約 250 枚 (CIPA 規格による)、充電時間: 約 160 分 (完全放電状態から)、Panasonic Energy (Wuxi) Co, Ltd. Made in China

インターフェース Micro HDMI タイプ D、HDMI 1.4b 対応、USB Type-C 端子、USB 3.0 Super Speed 対応、USB 接続による充電が可能 (最大 1A)、アクセサリシュー

バッテリーチャージャー BC-DC13、入力: AC100-240V、50/60Hz、自動切替、出力: DC 8.4V / 0.65A、寸法: 約 96x68x28mm、質量: 約 90g
Shenzen Eng Electronics Co., Ltd., Made in China

本体 無垢のアルミニウムを使用したユニボディ、着脱可能なダミープラグ (キャリングストラップなどのアクセサリ用)、ISO に準拠したアクセサリシュー (中央接点および制御接点を装備、外部フラッシュユニットや電子ビューファインダーを装着可能)

三脚ねじ穴 A 1/4 (1/4 インチ、DIN 4503 に準拠)

寸法 134 × 69 × 33mm (幅 × 高さ × 奥行)

質量 約 355g (バッテリー含まず) / 399g (バッテリー含む)

付属品 本体、キャリングストラップ、キャリングストラップ取り外しピン × 2、ダミープラグ × 2、ボディキャップ、アクセサリシューカバー、充電式リチウムイオンバッテリー (BP-DC 13)、バッテリーチャージャー (BC-DC 13、着脱式電源プラグ 6 種類付属)、USB ケーブル タイプ C、保証カード、取扱説明書、冊子「お客様へのサービス」

ソフトウェア Leica アプリ (Apple™ App Store™ / Google™ Play Store™ より無料ダウンロード可能)

デザイン、仕様、その他は予告なく変更される場合があります。

ライカのホームページ

ライカのホームページでは、各種製品、イベント、ライカについての最新情報をご覧ください。
<http://www.leica-camera.co.jp>

ライカ デジタルサポートセンター

<使用方法等技術的なお問い合わせ窓口>

Tel: 0120-03-5508

受付時間：

月曜日～金曜日 9：30 - 18：00

祝祭日は受け付けておりません。

ライカ カスタマーケア

お手持ちの製品のメンテナンスや修理が必要な場合は、下記のカスタマーケア、またはお近くのライカ正規販売店までご相談ください。

ライカカメラジャパン株式会社

カスタマーケア

東京都中央区銀座 6-4-1 ライカ銀座店内

Tel：03-6215-7072

Fax：03-6215-7073

E-mail：info@leica-camera.co.jp